I. 総合研究報告

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業（がん政策研究事業））
総合研究報告書

がん統計を活用した、諸外国とのデータ比較に基づく日本のがん対策の評価のための研究

研究代表者　松田　智大　国立がん研究ｾﾝﾀｰがん対策研究所国際政策研究部　部長

研究要旨　本研究では、全国がん登録、院内がん登録、人口動態統計等を活用し、日本およびアジア地域におけるがん対策の実態把握、国際比較ならびにデータ利活用促進に関する研究を実施した。全国がん罹患モニタリング集計（MCIJ）データを用いて主要がんの罹患率、死亡率、純生存率、有病数等を解析し、地域差や国際的位置づけを評価した。また、CONCORD や CI5 等の国際共同研究を通じ、我が国のがん対策の成果と課題を明らかにした。さらに、希少がん・小児がん分野では、Federated Learning 等を用いた分散型解析基盤を導入し、RARECAREnet Asia、ANCCA、G7 Cancer WG 等と連携した国際共同研究を推進した。加えて、全国がん登録と NDB 等との連結利用、ID5 を用いた名寄せ手法、院内がん登録と DPC・バイオバンク等を組み合わせた解析基盤の整備を進め、リアルワールドデータ活用の可能性を示した。本研究は、国際標準に即したがんサーベイランス体制の構築と、科学的根拠に基づくがん対策評価に重要な知見を提供した。

研究分担者氏名・所属機関名・職名
阿部サラ・(国研)国立がん研究ｾﾝﾀｰ・室長（R5 年度）
伊藤秀美・愛知県がんｾﾝﾀｰ研究所・分野長（R5~7 年度）
伊藤ゆり・大阪医科薬科大学・教授（R5~7 年度）
梅沢淳・(国研)国立がん研究ｾﾝﾀｰ・室長（R6~7 年度）
大木いずみ・埼玉県立大学・教授（R5~7 年度）
片野田耕太・(国研)国立がん研究ｾﾝﾀｰ・部長（R5~7 年度）
ガテリエローリン・(国研)国立がん研究ｾﾝﾀｰ・研究員（R5~7 年度）
木塚陽子・サイニクス㈱・バイスプレジデント（R5~7 年度）
工藤榛香・(地独)大阪府立病院機構・大阪国際がんｾﾝﾀｰ・保健師（R5~7 年度）
雑賀公美子・国立大学法人弘前大学・客員研究員（R5~7 年度）
齋藤亜由美・(国研)国立がん研究ｾﾝﾀｰ・医員（R5~7 年度）
シャルヴァアドリアン・順天堂大学・講師（R5~7 年度）
杉山裕美・(公財)放射線影響研究所・副部長（R5~7 年度）
中田佳世・(地独)大阪府立病院機構・大阪国際がんｾﾝﾀｰ・部長（R5~7 年度）
西野善一・金沢医科大学・教授（R5~7 年度）
大川純代・(国研) 国立健康危機管理研究機構・上級研究員（R6~7 年度）
春山怜・(国研)国立国際医療研究ｾﾝﾀｰ・医師（R5 年度）
堀芽久美・国立がん研究センターがん対策研究所・室長（R5~7 年度）

A. 研究目的

本研究の目的は、第 4 期がん対策推進基本計画開始期における我が国のがん負担の実態を、全国がん登録、院内がん登録、人口動態統計等の既存統計および新規収集情報を用いて明らかにし、国際比較に基づき評価することである（図 1）。我が国では、がん登録制度の整備により高精度ながん統計が利用可能となった一方、その結果を国際的文脈の中で継続的かつ定型的に評価し、政策へ反映する仕組みは十分確立されていない。本研究では、罹患率、死亡率、生存率、有病数、診断時進展度等を用いて、予防から診断、治療、サバイバーシップまでを包括的に評価することを目指した。また、希少がんや小児がん等において、国際共同研究に必要なデータ共有基盤や解析手法を整備するとともに、全国がん登録と他データベースとの連結利用や分散解析技術を活用し、今後のリアルワールドデータ利活用の方向性を示すことを目的とした。

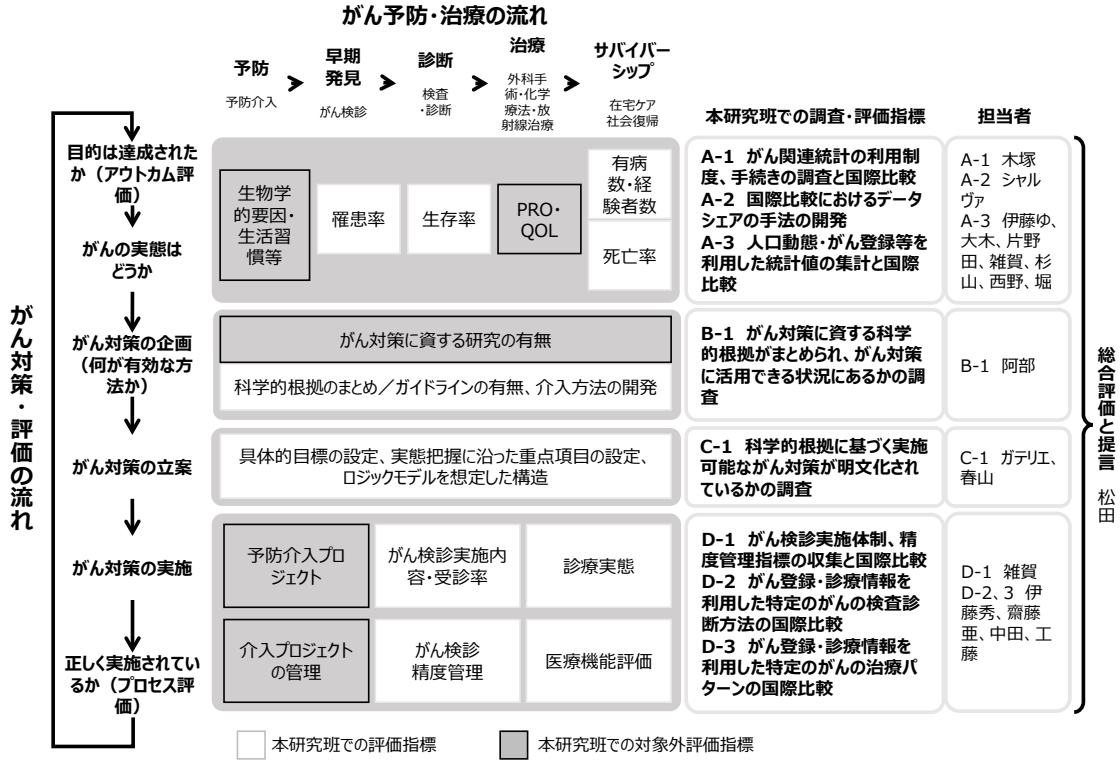


図 1. 研究のながれ

B. 研究方法

A) がん関連統計の利活用

1. がん関連統計の利用制度、手続きの調査と国際比較（木塚、梅沢）

本研究で利用するがん関連統計が、諸外国ではどのように 1 次・2 次利用できるか、法的根拠も含めた制度、利用の手続きや環境を調査する。OECD 加盟国を中心とした国に対して質問紙調査を行い、結果をまとめる（R5 年度）。まとめた結果から、参考

になる事例をピックアップし、海外視察を含めて詳細調査する（R6 年度）。我が国の体制に活かせる点を提言する（R7 年度）。また、個人照合に際し PIN や氏名、生年月日などのキー情報をいかに利用しているかを調査する。（R6 年度）。我が国の体制に活かせる点を提言する（R7 年度）。

2. 人口動態・がん登録等を利用した統計値の集計と国際比較（伊藤ゆ、大木、片野田、雜賀、杉山、西野、堀）

都道府県から収集した高精度がん登録データ及び人口動態統計に基づくがん死亡データを利用して、国際標準分類に基づいて、罹患率、死亡率、生存率、有病数等の分析を行い、諸外国との比較をして、我が国のがん負担の把握をする。IARC/IACR による「五大陸のがん罹患第12版」の結果を分析し、罹患率の国際比較を実施する。また、2012～15 年診断症例の生存率を算出し、CONCORD4 研究などを参照して生存率の国際比較を実施する（R5～R6 年度）。地域・全国がん登録データを、国際標準希少がん分類や小児がん分類に基づいて集計し、がん診療連携拠点病院とその他医療機関別に集計し、受療患者群の特性を把握する。治療内容と生存率とを掛け合わせ、症例集積の有効性を検証し、医療機能評価の一助とする。有病数の算出に基づいて、サバイバーシップ支援の評価資料とする（R5～R7 年度）。

B) がん予防にかかる科学的根拠の調査

1. がん対策に資する科学的根拠がまとめられ、がん対策に活用できる状況にあるかの調査（阿部、松田）

我が国の JPHC や、欧州の EPIC、ACC 加盟のアジアでの大規模コホート研究をはじめとする疫学研究に基づく科学的根拠の有無を国内外でまとめ、国際比較の際の、がん統計の多少や増減についての解釈の一助とする（R5～R7 年度）。

C) がん対策の国際比較

1. 科学的根拠に基づく実施可能ながん対策が明文化されているかの調査（大川、ガテリエ、春山）

国際がん登録協議会（IACR）やアジア国立がんセンター連盟（ANCCA）等のネットワークを利用して A-1 及び B-1 の調査対象国を中心にまとめ（R5 年度）、がん対策の実施と、がん統計との関係について分析を行う。調査結果を基に、我が国でのあり方を提言する（R6～R7 年度）。

D) がん検診・がん診療の国際比較

1. がん検診実施体制、精度管理指標の収集と国際比較（雜賀）

IARC の主導する CANSCREEN5 に参画し、がん検診の実施体制の国際比較を実施する（R5 年度）。他の研究班において設定した標準的な精度管理指標を算出し、国際比較をした上で、我が国のがん検診の質を評価する（R6～R7 年度）。

2. がん登録・診療情報を利用した特定のがんの検査診断方法の国際比較（伊藤秀・齋藤亜、中田、工藤）

早期発見によるがん生存率の向上やがん死亡率の低減の正確な把握のため、わが国が他国より成績のよい肺がん、消化器がん等の部位のがんに関して、がん診断に至る受療行動や、がん診断にかかる機器の導入、手技の普及などを調査する（R5 年度）。ま

た、IARC や米豪蘭各国と共同で、診断方法と診断時ステージや生存率との関係を分析し、追跡を行う（R6～7 年度）。

3. がん登録・診療情報を利用した特定のがんの治療パターンの国際比較（伊藤秀・齋藤亜、中田、工藤）

医療機関の協力の下、がん登録データに詳細な診療情報を個別に突合追加することで（ハイレゾリューション研究）、患者群の特性および診療内容を把握し、希少がん、小児がんなどの治療と予後の関連を分析する（R5～R7 年度）。対象となった患者をコホートとして長期追跡を行い、予後の評価をする（R6～R7 年度）。

C. 研究結果

A) がん関連統計の利活用

1. がん関連統計の利用制度、手続きの調査と国際比較

（R5 年度）

本研究で利用するがん関連統計が諸外国においてどのように一次利用・二次利用されているかについて、法的根拠、申請手続き、匿名化・仮名化の方法、データ提供の範囲、利用者資格、オンサイト解析環境、少数例公表の取扱い等を中心に調査を開始した。OECD 加盟国を中心に、がん登録情報が研究、行政評価、製薬企業等によるリアルワールドデータ活用にどの程度利用されているかを整理した。その結果、国によって利用制度には大きな差があり、匿名化データの提供を比較的広く認める国、オンサイト環境でのみ解析を認める国、研究目的や公共性の審査を重視する国など、多様な制度設計が確認された。日本では全国がん登録情報の提供制度が整備されているものの、申請手続き、書類提出、審査、提供までの期間など、実務上の負担が大きいことが課題として整理された。また、民間企業による利用については、諸外国では一定の条件下で行われている一方、日本では制度的・社会的受容性を含めて検討が必要であることが示された。

加えて、国際共同研究において個票データの国外移転が困難になっている状況を踏まえ、Federated Learning（FL）によるデータシェアリングの試行を行った。大阪国際がんセンター、佐久医療センター、放射線影響研究所、国立がん研究センター、オランダ IKNL 等を接続する形で、個別データを移動させずに解析結果を統合する仕組みを検討した。従来の STATA 等による解析結果と比較し、FL によって同等の解析結果が得られる可能性が示された。これにより、GDPR 等の国際的な個人情報保護規制下でも、希少がんや小児がんなど症例集積が不可欠な領域で国際共同研究を継続できる見通しが得られた。

（R6 年度）

R5 年度の制度調査を踏まえ、全国がん登録情報の利活用ニーズと、他の公的データベースとの連結可能性に焦点を当てた検討を進めた。製薬企業を対象とした調査では、全国がん登録データに対する認知度は高く、新薬開発、適応拡大、希少がんの患者数把握、リアルワールドエビデンス構築、治療実態の把握などへの利用期待が示された。一方で、申請手続きの煩雑さ、データ提供までの時間、解析環境の制約、利用料金、集計結果公表時の制限などが、実用上の障壁として挙げられた。

また、全国がん登録と NDB、介護 DB 等

との連結利用を念頭に、個人照合の方法について検討した。米国 SEER Program におけるプライバシー保護型記録リンケージや、日本における NDB-介護 DB 連結の実装事例を参考に、氏名、生年月日、住所等の 4 情報に加え、医療保険被保険者番号等由来の ID5 をどのように活用するかを整理した。ID5 を完全な一意識別子としてではなく、4 情報照合を補助するキー、または二段階照合の前処理として利用する可能性が検討された。

FL については、Vantage6 を用いた分散解析環境の検証を進め、RARECAREnet Asia 等の国際共同研究への適用を試みた。頭頸部がん等を対象に、国ごと・施設ごとの個票データを外部に移動させることなく、生存率等の比較解析を実施する枠組みを整備した。これにより、国際共同研究におけるデータ共有の技術的選択肢が拡大した。

（R7 年度）

全国がん登録において医療保険被保険者番号等の収集が制度上可能となることを踏まえ、全国がん登録と NDB 等の公的医療データベースとの連結利用について、制度的・技術的課題をより具体的に整理した。製薬企業等の利用ニーズは引き続き高く、特にがん医療の実態把握、薬剤使用後の長期予後評価、希少がん・小児がん領域でのエビデンス創出において、全国がん登録と他データベースの連結が有用であることが示された。

海外事例として、オーストラリア PLIDA 等の行政データ連結基盤を調査し、がん登録、死亡統計、医療保険情報、社会保障関連情報等を統合的に解析する仕組みを整理した。これらの事例から、日本においても、単一研究ごとの個別連結ではなく、制度化された安全な連結解析基盤を整備する必要性が示された。

FL および Federated Querying（FQ）については、RARECAREnet Asia、G7 Cancer WG、WHO WPRO 等との連携を通じ、希少がん・小児がん領域における実装可能性を検証した。国際的な患者レベルデータ移転が困難な状況下でも、解析プログラムを各国データベース側で実行し、集計値やモデルパラメータのみを共有する方式が現実的な選択肢となることが確認された。一方で、導入には IT 環境、標準化されたデータ項目、解析手順の共有、各国の倫理・法制度への対応が必要であることも明らかとなった。

2. 人口動態・がん登録等を利用した統計値の集計と国際比較

（R5 年度）

都道府県から収集した高精度がん登録データおよび人口動態統計を用いて、罹患率、死亡率、生存率、有病数等の集計を進めた。2012～2015 年診断症例を対象とした 5 年純生存率の算出に向け、データ提供状況、精度基準、解析対象の選定を行った。全国がん罹患モニタリング集計（MCIJ）の枠組みを継承し、地域がん登録から全国がん登録への移行期におけるデータの連続性を確保しながら、国際比較可能な生存率集計の基盤を整備した。

また、CI5 や CONCORD 等の国際共同研究を視野に、国際標準分類に基づく罹患率・生存率解析を行った。希少がん、小児がんについては、国際分類に基づく集計を進め、がん診療連携拠点病院とその他医療機関別の患者分布を把握する準備を行った。院内がん登録や臓器別がん登録との併用可

能性についても検討され、住民ベースがん登録では把握しきれない治療内容や診療経過を補完する必要性が明らかとなった。

（R6 年度）

MCIJ データを用いて、2012～2015 年診断例の 5 年純生存率推計を本格的に実施した。DCO 割合、DCN 割合、MI 比等に基づく精度基準を設定し、一定の基準を満たす 44 地域のデータを解析対象とした。約 250 万件規模の症例を用い、部位別、性別、年齢階級別、進展度別に Pohar-Perme 法による純生存率を算出した。その結果、多発性骨髄腫、悪性リンパ腫、前立腺がん等では生存率の改善が確認された。一方、膵臓がん、胆道がん等では依然として生存率が低く、早期診断や治療開発の必要性が示された。

主要部位別の罹患率・死亡率年次推移解析を本格的に進めた。全国がん登録開始後の統計値を含め、長期的な推移を評価した結果、胃がん、肝臓がんでは罹患率・死亡率とも低下傾向が継続していた。一方、女性乳房、子宮体部、膵臓等では増加傾向が認められた。また、全国がん登録開始年である2016年には、一部部位で罹患率の一時的上昇が確認された。

また、院内がん登録と DPC、バイオバンク、苦痛スクリーニング等を研究用 ID で連結し、がん患者の臨床情報、生活習慣、支持療法、苦痛、診療内容等を多面的に解析する基盤を整備した。これにより、住民ベースがん登録単独では把握できない治療実態や緩和ケア、長期予後、晩期合併症等の評価可能性が示された。さらに、第 4 期都道府県がん対策推進計画とがん登録の関係を整理し、死亡率、罹患率、生存率、早期がん割合等が都道府県計画の評価指標として活用されていることを確認した。

（R7 年度）

全国がん登録および MCIJ データを用いた純生存率解析、希少がん解析、地域差解析をさらに進めた。全国がん登録の精度向上により、国際標準に準拠した詳細解析が可能となっている一方、日本では高齢化が進んでおり、従来の相対生存率や ICSS 年齢調整法のみでは十分に実態を評価できない可能性が示された。純生存率を用いた解析や、年齢階級設定の再検討が必要であることが整理された。

都道府県別の生存率解析では、進展度や年齢構成だけでは説明できない地域差が認められた。これは、診療アクセス、治療継続性、専門医療機関への集約、医療資源配置、地域の高齢化状況等が関与している可能性を示すものであった。希少がん・小児がんについては、受療動態や拠点病院での診療カバー割合を解析し、一部の疾患では専門施設への集約が進む一方、疾患や地域によっては症例分散やアクセス格差が残ることが明らかとなった。

B) がん予防にかかる科学的根拠の調査

1. がん対策に資する科学的根拠がまとめられ、がん対策に活用できる状況にあるかの調査

（R5 年度）

がん統計の国際比較を解釈するための基礎として、がん予防に関する科学的根拠の整理を行った。日本の JPHC 研究、欧州の EPIC 研究、アジア・コホート・コンソーシアム（ACC）等、大規模疫学研究に基づく知見を収集し、喫煙、飲酒、食生活、肥

満、身体活動、感染症等の主要危険因子とがん罹患・死亡との関連を整理した。国際比較においては、単に罹患率や死亡率の高低を見るだけでなく、各国・地域における危険因子分布、検診体制、診断技術、治療アクセスの違いを踏まえた解釈が必要であることが確認された。

（R6 年度）

国内外の疫学研究の整理を継続し、アジア諸国を含む比較の観点から、生活習慣や社会環境の違いががん統計に与える影響を検討した。喫煙率や飲酒習慣、肥満の分布、肝炎ウイルス・HPV・ヘリコバクター・ピロリ等の感染関連因子の違いが、部位別罹患率や死亡率の国際差に影響することを整理した。また、COVID-19 流行による受診行動、検診受診、診断件数への影響についても、将来的ながん負担評価の際に考慮すべき要素として位置づけた。

（R7 年度）

なし

C) がん対策の国際比較

1. 科学的根拠に基づく実施可能ながん対策が明文化されているかの調査

（R5 年度）

IACR、ANCCA 等の国際ネットワークを活用し、各国の国家がん対策計画、がん登録制度、検診政策、診療体制、予防政策等の情報収集を行った。アジア諸国では、国家がん対策計画の策定状況、がん登録の整備状況、検診制度の実装状況、治療アクセス、医療費保障に大きな差が認められた。がん対策が明文化されていても、実施体制や評価指標が十分整備されていない国もあり、計画の有無だけでなく、実装と評価の仕組みを含めた比較が必要であることが明らかとなった。

（R6 年度）

なし

（R7 年度）

日本を含む 11 か国の国家がん対策計画を解析した結果、小児がん対策に関する記載が最も充実していたのはスリランカであり、日本、カンボジア、フィリピンが続いた。CureALL フレームワークでは、専門医療拠点や診療ネットワーク整備に関する記載が最も多く、標準治療や登録・評価体制に関する内容が続いた。一方、医療費保障など Universal Health Coverage（UHC）に関する記載は少なかった。また、啓発活動や政策提言に関する記述は多かったが、小児がん登録や生存率評価体制の整備状況には国間差が認められた。アジア地域では小児がん対策計画は徐々に整備されつつある一方、実施体制には依然大きな差が存在していた。

D) がん検診・がん診療の国際比較

1. がん登録データ利用促進と国際比較

都道府県におけるがん登録情報の利活用支援を目的とし、医療圏別や詳細部位別の集計が困難という課題に対応するため、SEERStat の操作マニュアルを作成した。SEERStat は米国 NCI 提供の集計ツールで、Frequency、Rate、Survival 機能の使用法や結果のエクスポート手順をマニュアル化した。

2. がん登録・診療情報を利用した特定のがんの検査診断方法の国際比較

（R5 年度）

肺がん、消化器がん等、日本で比較的良好な生存率が報告されているがん種を対象

に、診断に至る受療行動、診断機器の普及、検査手技、検診制度等について検討を開始した。都道府県や自治体レベルでがん登録情報を事業として利用する場合、研究とは異なり、知事や市長の承認、公表に関する調整などが必要となり、予定通り進まない場合があることが明らかとなった。また、医療機関へのアクセスについては、がん種によって地域格差の現れ方が異なった。肝がんでは肝炎ウイルス感染の経過観察が専門医療機関で行われること、子宮頸がんでは罹患年齢が比較的若く、医療情報へのアクセスや受療行動が異なることなどが、格差の程度に影響している可能性が示された。

（R6 年度）

診断方法と診断時進展度、生存率との関連をより具体的に検討した。IARC や米国、豪州、オランダ等との共同研究を念頭に、日本で生存率が良好ながん種について、早期診断の寄与、診断機器の普及、医療アクセスの違いを検討した。胃がんや肺がんなどでは、検診や画像診断・内視鏡診断の普及が、限局例割合や生存率に影響している可能性が示された。一方、地域ごとの診断体制や検診受診状況の違いが、同じ国内でも診断時進展度分布の差として現れる可能性があることが確認された。

（R7 年度）

愛知県の胃がんを対象に、全国と比較した罹患率、死亡率、生存率、診断時進行度分布を解析した。愛知県では、胃がんの罹患率は全国より低い一方、死亡率はやや高く、生存率も低い傾向が認められた。診断時進行度では、限局例割合が全国より低く、領域例および遠隔転移例の割合が高い傾向があった。一方、進行度別生存率の差は比較的小さく、全体の生存率差には診断時進行度の分布が関与している可能性が示された。この結果は、検診受診、早期診断、受療アクセスの地域差を評価する上で重要な知見となった。

3. がん登録・診療情報を利用した特定のがんの治療パターンの国際比較

（R5 年度）

がん登録データに診療情報を追加するハイレゾリューション研究として、小児がん、希少がん、骨軟部肉腫等を対象に、治療内容と予後の関連を検討した。小児がんサバイバーでは、1975～2014 年に小児がんと診断されたサバイバー7,229 人のうち 101 人が二次がんに罹患し、標準化罹患比は 5.0 であった。二次がんでは中枢神経系腫瘍が多く、一次がんの治療法、とくに放射線治療がリスクに関連する可能性が示された。これにより、小児がんサバイバーの長期フォローアップ、晩期合併症対策、二次がんの早期発見体制の重要性が明らかとなった。

（R6 年度）

院内がん登録、DPC、電子カルテ情報等を組み合わせ、骨軟部肉腫等の詳細な治療パターンと予後を解析した。国立がん研究センター中央病院において 2000～2020 年に院内がん登録された骨軟部肉腫症例を対象とし、16 歳以上で薬物療法を受けた症例について、年齢、性別、診断年、組織型、手術、放射線治療、薬物療法の内容を収集した。対象症例 3,196 例のうち薬物療法を受けた症例は 510 例であり、2014 年以降登録症例の増加が認められた。薬物療法としては、アドリアマイシン、イホマイド、両者の併用療法が多く用いられていた。全国がん登録データと比較して、化学療法を要す

る組織型の割合が高いことも確認された。

（R7 年度）

骨軟部肉腫、乳がん、小児がん等を対象に、治療パターンと予後、地域差、社会経済格差を含む解析を進めた。骨軟部肉腫では、院内がん登録データに基づき、滑膜肉腫、横紋筋肉腫、ユーイング肉腫等、化学療法を要する肉腫の頻度が高く、AYA 世代に多くみられることが確認された。年次別には生存期間の延長傾向がみられ、新規治療薬の影響も一部の組織型で示唆された。一方、アドリアマイシン投与群では予後不良であり、薬物療法が行われる症例がより進行した症例である可能性も考えられた。乳がん等では、地域の困窮度と患者背景、進行度、生存率との関連が検討され、社会経済的要因が診断・治療・予後に影響する可能性が示された。

D. 考察

A) がん関連統計の利活用

1. がん関連統計の利用制度、手続きの調査と国際比較

（R5 年度）

R5 年度の調査により、日本の全国がん登録は、全国規模で高精度ながん罹患情報を収集する制度として国際的に重要な基盤である一方、利活用制度には実務上の課題が残ることが明らかとなった。諸外国では、がん登録データを政策評価、研究、医薬品開発、リアルワールドエビデンス創出に活用する制度が整備されつつあり、オンサイト解析環境、リモート解析、標準化された申請手続きなどが導入されている国もある。これに対し、日本では制度上の提供枠組みは存在するものの、審査・申請・提供の手続きが複雑で、研究者や自治体、民間企業が迅速に利用しにくい面がある。

また、R5 年度に試行された FL は、個票データを移動させずに国際共同解析を可能にする技術として、今後のがん登録研究に大きな意味を持つ。希少がんや小児がんのように、一国のみでは十分な症例数を確保しにくい領域では、国際共同研究が不可欠である。しかし、GDPR をはじめとする個人情報保護規制により、患者レベルデータの国際移転はますます困難になっている。FL は、こうした制約の下でも研究を進めるための実践的な代替手段であり、R5 年度の試行はその出発点として意義が大きい。

（R6 年度）

製薬企業等に対するニーズ調査は、全国がん登録情報が学術研究にとどまらず、医薬品開発、承認後評価、希少がん対策などに広く活用され得ることを示した。特に、NDB 等との連結により、治療内容、薬剤使用、医療費、予後を統合的に把握できれば、日本におけるリアルワールドエビデンス基盤として大きな価値を持つ。一方で、民間利用を進めるには、公共性、患者・国民の理解、利益相反管理、安全管理措置、結果公表ルールなどを慎重に整理する必要がある。

ID5 を用いた名寄せの検討は、全国がん登録の将来の利活用において極めて重要である。従来の氏名、生年月日、住所等による照合は、表記揺れや転居、婚姻等による氏名変更、入力誤りに影響される。ID5 を補助的に用いることで、照合精度と効率の改善が期待される。ただし、ID5 も完全ではなく、誤登録や別人紐付けの可能性がゼロではないため、4 情報との併用、段階的

照合、人手確認の対象設定など、実務的に安全な運用設計が必要である。

（R7 年度）

R7 年度の検討では、全国がん登録と NDB 等との連結が、制度的にも技術的にも現実的な課題として整理された。海外では、PLIDA のように行政・医療・社会保障データを統合的に解析する基盤が整備され、政策評価や健康格差研究に活用されている。日本でも、全国がん登録を孤立したデータベースとして扱うのではなく、医療、介護、死亡、社会経済指標等と安全に連結できる基盤へ発展させることが求められる。

FL や FQ については、R5 年度の技術試行から、R6 年度の研究利用、R7 年度の国際連携への拡張へと進展した。今後は、単発の研究プロジェクトごとにシステムを構築するのではなく、がん登録分野における標準的な国際共同解析基盤として整備することが望ましい。そのためには、データ項目の標準化、解析プログラムの検証、各国での倫理審査・法令対応、IT 人材の確保、持続可能な運用費用の確保が必要である。

2. 人口動態・がん登録等を利用した統計値の集計と国際比較

（R5 年度）

全国がん登録・地域がん登録データを用いた生存率・罹患率・死亡率解析の基盤整備が中心であった。地域がん登録から全国がん登録への移行期において、データの連続性と比較可能性を確保することは重要な課題である。がん対策の評価には、単年度の統計値だけでなく、長期的な年次推移や国際比較が不可欠であるため、MCIJ の枠組みを継承しながら、全国がん登録データへ移行していく意義は大きい。

胃がん・肝臓がんの減少は、ピロリ菌感染率低下、肝炎ウイルス対策、診断・治療の進歩等を反映している可能性が高い。一方、女性乳房や子宮体部の増加は、生活習慣変化、出産行動変化、肥満増加等が関与している可能性がある。2016 年の罹患率上昇は、全国がん登録開始による届出精度向上や把握範囲拡大の影響が考えられ、単純な実発生増加として解釈すべきではない。

また、希少がん・小児がんの国際分類に基づく集計を開始したことは、今後の国際共同研究の基盤となる。希少がんでは症例数が少ないため、分類のわずかな違いが罹患率や生存率に大きく影響する。小児がんでも成人がんとは異なる分類体系や病期分類が必要である。したがって、国際標準に基づいた集計体系を整えることは、単に統計表を作成するだけでなく、日本のデータを国際的なエビデンス形成に接続するための前提条件である。

（R6 年度）

R6 年度に実施された 2012～2015 年診断例の 5 年純生存率解析は、日本のがんサーベイランスにおいて重要な成果である。Pohar-Perme 法を用いた純生存率は、死因情報の正確性に依存しにくく、国際比較にも適した指標である。DCO、DCN、MI 比等による精度基準を設定したことにより、都道府県間でデータ品質を担保しながら比較できる体制が整った。

生存率改善がみられたがん種では、診断技術、治療法、薬物療法、支持療法の進歩が反映されている可能性がある。一方、膵臓がんや胆道がんのように依然として低い生存率を示すがん種では、早期診断の困難さ、治療選択肢の限界、症状出現時には進

行していることなど、複合的課題が存在する。今後は、罹患率・死亡率・生存率を統合的に評価し、予防、早期診断、治療開発、緩和ケアまで含む対策が必要である。

院内がん登録とDPC等の連結は、住民ベースがん登録の限界を補完する有効な方法である。全国がん登録は罹患、進展度、初回治療、予後を把握できるが、薬剤名、治療ライン、支持療法、生活習慣、患者報告アウトカム等は十分把握できない。DPC、バイオバンク、苦痛スクリーニング等との連結により、がん医療の質をより詳細に評価できる可能性が示された。

（R7年度）

全国がん登録の精度向上により、国際標準に準拠した詳細解析が可能となった一方、高齢化が進む日本においては従来型の年齢調整や生存率指標の限界も明らかとなった。高齢患者が増加する中では、単純な5年生存率だけでは、治療選択、併存疾患、フレイル、生活機能、治療継続性を十分反映できない。今後は、純生存率に加え、年齢階級別、併存疾患別、治療内容別の解析が必要となる。

都道府県間の生存格差が進展度や年齢だけでは説明できないことは、がん対策評価における重要な示唆である。格差の背景には、専門医療機関へのアクセス、検診受診、診断までの時間、治療開始までの期間、治療継続、患者の社会経済状況、地域医療資源などが関与している可能性がある。今後は、全国がん登録に医療提供体制や社会経済指標を組み合わせ、格差の要因を分解する研究が求められる。

B) がん予防にかかる科学的根拠の調査

1. がん対策に資する科学的根拠がまとめられ、がん対策に活用できる状況にあるかの調査

（R5年度）

R5 年度の科学的根拠整理は、がん統計の国際比較を単なる数値比較に終わらせないために重要であった。罹患率や死亡率の国際差は、登録精度、診断機会、検診制度、治療成績だけでなく、喫煙、飲酒、食生活、感染症、肥満、身体活動等の危険因子分布に大きく影響される。したがって、日本のがん統計を諸外国と比較する際には、背景にあるリスク要因の違いを踏まえた解釈が不可欠である。

JPHC、EPIC、ACC 等の大規模コホート研究は、各地域の生活習慣とがん発生の関係を明らかにしてきた重要な基盤である。これらの知見をがん登録データと接続することで、罹患率や死亡率の地域差・国際差の原因をより深く理解できる。R5 年度は、そのための知見整理を進めた段階と位置づけられる。

（R6年度）

アジア地域を含む比較の視点から、危険因子とがん負担の関係を整理した点に意義がある。アジアでは、欧米と比較して感染関連がんの負荷が相対的に大きく、胃がん、肝がん、子宮頸がんなどでは、ピロリ菌、肝炎ウイルス、HPV 等の感染対策が重要である。一方、経済発展に伴い、肥満、糖尿病、運動不足、食生活の欧米化などが新たなリスク要因として増加している。

COVID-19 流行による受診控えや検診受診率低下は、短期的には罹患数の減少として見える可能性があるが、実際には診断遅れや進行例増加を通じて将来の死亡率や生存率に影響する可能性がある。したがって、

コロナ禍前後の統計変動を解釈する際には、真の発生減少と診断機会減少を区別する必要がある。

（R7 年度）

なし

C) がん対策の国際比較

1. 科学的根拠に基づく実施可能ながん対策が明文化されているかの調査

（R5 年度）

R5 年度の調査により、アジア諸国におけるがん対策計画の整備状況には大きな差があることが確認された。国家がん対策計画が存在する国でも、実施責任、予算、評価指標、がん登録との連動が十分でない場合がある。逆に、計画文書は限定的でも、特定の検診や治療体制が実務上整備されている国もある。したがって、国際比較では、計画の有無だけでなく、実施可能性、財源、データ基盤、評価体制を含めて把握する必要がある。

がん登録は、がん対策計画の進捗を評価する基盤である。登録制度が未整備または精度不十分な国では、罹患率、生存率、進展度、治療成績を把握できず、政策効果の検証が困難となる。R5 年度の結果は、がん登録整備支援がアジア地域のがん対策強化に不可欠であることを示している。

（R6 年度）

なし

（R7 年度）

ANCCA 加盟国比較は、アジア地域における小児がん対策の現状を明らかにした点で意義が大きい。小児がんは成人がんに比べ症例数が少なく、専門医療、診断、治療、長期フォローアップの体制整備が不可欠である。専門施設や診療ネットワークが整備されつつある国もある一方、医療費保障、登録制度、治療成績把握、医薬品アクセスに課題を抱える国も多い。

WHO GICC が掲げる小児がん生存率向上目標を達成するためには、各国の国家がん対策計画に小児がんを明確に位置づけ、診療体制、サーベイランス、医療費保障、長期フォローアップを一体的に整備する必要がある。日本においても、小児がん拠点病院制度、全国がん登録、院内がん登録を連携させ、国際比較可能な病期・再発・長期予後情報を整備することが求められる。

D) がん検診・がん診療の国際比較

1. がん検診実施体制、精度管理指標の収集と国際比較

（R5 年度）

CANSCREEN5 への参画を通じ、がん検診制度を国際比較するための基盤整備が行われた。日本の検診制度は、市区町村主体の対策型検診と職域・任意型検診が併存しており、国際的にみても複雑な構造を有する。この構造は、地域の実情に応じた運用を可能にする一方、受診率把握、精度管理、検診結果の統合、がん登録との連結を難しくしている。

R5 年度の段階では、検診実施体制そのものの国際比較に向けた準備が中心であったが、ここで整理された制度差は、R6 年度以降の精度管理指標比較に不可欠である。検診の質を評価するためには、単に受診率を比較するだけでなく、対象者定義、検診間隔、精検受診、発見がんの定義、中間期がんの把握方法を標準化する必要がある。

（R6 年度　R7 年度）

他の研究班に統合

2. がん登録データ利用促進と国際比較

（R6 年度　R7 年度）

SEER*Stat 等の国際的ツールを用いた解析環境整備は、都道府県レベルでのがん対策評価を推進する上で有用である。一方、システム変更への継続対応や標準化維持には人的・技術的支援が必要である。

3. がん登録・診療情報を利用した特定のがんの検査診断方法の国際比較

（R5 年度）

がん登録情報を用いて診断方法や医療アクセスを評価する際には、制度的・行政的な制約が大きいことが示された。都道府県や自治体レベルでのがん登録情報利用は、研究としての利用と事業としての利用で手続きが異なる。特に、自治体が事業評価として用いる場合、承認、公表、住民説明、関係機関調整が必要となり、迅速な分析が難しい場合がある。

また、がん種によって医療アクセス格差の現れ方が異なることは重要である。肝がんでは、肝炎ウイルス感染者が専門医療機関で経過観察されていることが早期診断や専門治療へのアクセスに影響する可能性がある。子宮頸がんでは、罹患年齢が比較的若いことや検診制度の違いが影響している可能性がある。したがって、がん医療アクセスを評価する際には、単一の指標ではなく、がん種ごとの自然史、検診制度、診療経路を踏まえた分析が必要である。

（R6 年度）

R6 年度の診断方法と進展度・生存率の関連解析は、日本のがん生存率が高い理由を解明する上で重要である。日本では、胃がん、大腸がん、肺がんなど一部のがんで比較的良好な生存率が報告されているが、その背景には治療成績だけでなく、検診、内視鏡、画像診断、医療アクセス、診断時進展度の違いが関与している可能性がある。

国際比較においては、生存率の高さを単純に医療の優劣として解釈することはできない。早期診断が進んでいる国では、リードタイムバイアスや過剰診断の影響も考慮する必要がある。一方、診断時進展度別に比較することで、早期発見の寄与と治療成績の寄与を一定程度分けて評価できる。R6 年度の検討は、診断方法、進展度、生存率を組み合わせた国際比較の重要性を示した。

（R7 年度）

R7 年度の愛知県胃がん解析は、国内地域差の具体例として重要である。愛知県では罹患率が全国より低い一方、死亡率がやや高く、生存率が低い傾向が認められた。さらに、限局例割合が低く、領域例・遠隔転移例割合が高いことから、全体生存率の差には診断時進行度分布が関与している可能性がある。

4. がん登録・診療情報を利用した特定のがんの治療パターンの国際比較

（R5 年度）

小児がんサバイバーに関する解析は、がん登録データを長期フォローアップに活用する意義を示した。小児がんは治癒可能性が高まる一方、治療後数十年にわたる晩期合併症や二次がんのリスクが問題となる。標準化罹患比が高く、特に放射線治療との関連が示されたことは、治療選択時の長期リスク評価と、サバイバーシップ支援の重要性を示している。ただし、住民ベースがん登録だけでは、治療内容の詳細、線量、薬剤、再発、晩期合併症を十分に把握できない。したがって、小児がんでは、全国がん登録、院内がん登録、小児がん拠点病院

の診療情報、長期フォローアップ外来情報を連結する仕組みが必要である。R5 年度の結果は、その必要性を明確にした。

（R6 年度）

骨軟部肉腫解析は、院内がん登録と電子カルテレビューを組み合わせたハイレゾリューション研究の有用性を示した。骨軟部肉腫は希少がんであり、組織型が多様で、治療内容も複雑である。全国がん登録だけでは薬物療法の詳細を把握することが困難であるため、専門施設の詳細データを用いた解析が重要である。対象症例のうち薬物療法を受けた症例を抽出し、薬剤内容や治療期間を確認したことにより、治療パターンと予後の関連をより具体的に評価できる基盤が整った。一方、単施設データでは紹介バイアスや症例選択の影響を受けるため、全国がん登録や他施設データとの比較が不可欠である。R6 年度の結果は、専門施設詳細データと住民ベースデータを組み合わせる必要性を示している。

（R7 年度）

治療パターン解析に地域差・社会経済格差の視点が加わった点に意義がある。がん治療の質は、標準治療の有無だけでなく、患者が適切な時期に専門医療へ到達できるか、治療を継続できるか、支持療法を受けられるかに左右される。地域困窮度と進行度・生存率との関連は、医療アクセスや社会的支援が予後に影響する可能性を示している。

骨軟部肉腫では、化学療法を要する組織型が AYA 世代に多く、専門的治療への集約が必要である一方、患者の居住地や社会経済状況によってアクセスに差が生じる可能性がある。今後は、全国がん登録、院内がん登録、DPC、レセプト、社会経済指標を組み合わせ、標準治療への到達、治療開始時期、治療継続、予後の関係を評価する必要がある。

E. 結論

本研究では、全国がん登録、院内がん登録、人口動態統計等を活用し、日本のがん負担の実態を国際比較可能な形で評価するとともに、がん統計利活用の新たな方向性を示した。主要がんでは生存率改善が確認された一方、膵臓がん等の難治がんや、地域差・社会経済格差、高齢化への対応が重要課題として明らかとなった。また、全国がん登録と NDB 等との連結、院内がん登録とのリンケージ、Federated Learning を用いた分散解析等により、リアルワールドデータ活用および国際共同研究の実装可能性が示された。さらに、ANCCA や WHO 等との連携を通じ、小児がん・希少がんを含むアジア地域のがん対策の現状と課題を整理した。本研究成果は、国際標準に基づくがんサーベイランス体制整備と、科学的根拠に基づくがん対策評価・政策形成の推進に資する重要な知見となった。

F. 健康危険情報

全国がん罹患モニタリング集計は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を遵守し、国立がん研究センター倫理審査委員会の承認を得た。都道府県がん登録と既存がん統計資料との併用分析については、顕名院内がん登録データを使用する場合には、都道府県がん登録室が県拠点病院に設置され、研究班関係者が都道府県がん登録と院内がん登録の両者へのアクセス権限をもつ施設において検証する。その他の既存

統計資料の利用にあたっては、規定の申請手続きを経るとともに、定められた安全管理措置を講じて、情報の漏洩等を防止する。

G. 研究発表

（個別分担研究に掲載）

H. 知的財産権の出願・登録状況

１．特許取得

該当なし

２．実用新案登録

該当なし

３．その他

I. 研究発表

（R5 年度）

松田　智大（研究代表者）

１．論文発表

1） 中林愛恵, 川上あゆみ, 田村研治, and 松田智大, オンラインチェック強化による届出票疑義照会件数の変化. JACR Monograph 2189-0579 (Print) 978-4-925059-27-5, 2022(27): p. 47-48.

2） Taniyama, Y., I. Oze, Y.N. Koyanagi, Y. Kawakatsu, Y. Ito, T. Matsuda, K. Matsuo, T. Mitsudomi, and H. Ito, Changes in survival of patients with non-small cell lung cancer in Japan: An interrupted time series study. Cancer Sci, 2022.

3） Soerjomataram, I., A. Bardot, J. Aitken, M. Pineros, A. Znaor, E. Steliarova-Foucher, B. Kohler, M. Bettio, T. Matsuda, M. de Camargo Cancela, L. Mery, and F. Bray, Impact of the COVID-19 pandemic on population-based cancer registry. Int J Cancer, 2022. 150(2): p. 273-278.

4） Saito, E., T. Yano, M. Hori, D. Yoneoka, T. Matsuda, Y. Chen, and K. Katanoda, Is young-onset esophageal adenocarcinoma increasing in Japan? An analysis of population-based cancer registries. Cancer Med, 2022. 11(5): p. 1347-1356.

5） Pilleron, S., N. Alqurini, J. Ferlay, K.R. Haase, M. Hannan, M. Janssen-Heijnen, K. Kantilal, K. Katanoda, C. Kenis, G. Lu-Yao, T. Matsuda, E. Navarrete, N. Nikita, M. Puts, F.J. Strohschein, and E.J.A. Morris, International trends in cancer incidence in middle-aged and older adults in 44 countries. J Geriatr Oncol, 2022. 13(3): p. 346-355.

6） Nguyen, P.T., K. Katanoda, E. Saito, M. Hori, T. Nakayama, and T. Matsuda, Trends in lung cancer incidence by gender, histological type and stage at diagnosis in Japan, 1993 to 2015: A multiple imputation approach. Int J Cancer, 2022. 151(1): p. 20-32.

7） Nakata, K., E. Hiyama, K. Katanoda, T. Matsuda, Y. Tada, M. Inoue, K. Kawa, M. Maru, C. Shimizu, K. Horibe, and I. Miyashiro, Cancer in adolescents and young adults in Japan: epidemiology and cancer strategy. Int J Clin Oncol, 2022. 27(1): p. 7-15.

8） Morgan, E., M. Arnold, M.C. Camargo, A. Gini, A.T. Kunzmann, T. Matsuda, F. Meheus, R.H.A. Verhoeven, J. Vignat, M. Laversanne, J. Ferlay, and I. Soerjomataram, The current and future incidence and mortality of gastric cancer in 185 countries, 2020-40: A population-

based modelling study. EClinicalMedicine, 2022. 47: p. 101404.

9） Matsuda, T. and H. Charvat, International variations in lymphoma incidence in children and adolescents. Jpn J Clin Oncol, 2022. 52(4): p. 399-401.

10） Matsuda, T. and H. Charvat, International variations in germ cell tumours incidence in children and adolescents. Jpn J Clin Oncol, 2022. 52(11): p. 1355-1357.

11） Kawakita, D., I. Oze, S. Iwasaki, T. Matsuda, K. Matsuo, and H. Ito, Trends in the incidence of head and neck cancer by subsite between 1993 and 2015 in Japan. Cancer Med, 2022. 11(6): p. 1553-1560.

12） Inoue, M., M. Hirabayashi, S.K. Abe, K. Katanoda, N. Sawada, Y. Lin, J. Ishihara, R. Takachi, C. Nagata, E. Saito, A. Goto, K. Ueda, J. Tanaka, M. Hori, T. Matsuda, and P.A.F.J.C. Cancer, Burden of cancer attributable to modifiable factors in Japan in 2015. Glob Health Med, 2022. 4(1): p. 26-36.

13） Gatellier, L. and T. Matsuda, International variations in central nervous system incidence in children and adolescents. Jpn J Clin Oncol, 2022. 52(5): p. 509-511.

14） Gatellier, L. and T. Matsuda, International variations in soft tissue sarcoma incidence in children and adolescents. Jpn J Clin Oncol, 2022. 52(10): p. 1250-1252. Iwata, T. Suzuki, S.K. Myung, J.Y. Chun, J.S. Han, F.N. Lau, S. Yusak, L. Bayarsaikhan, K.T. Mu, K.K. Pradhananga, A. Yusuf, C.H. Lin, R.C. Chiang, S. Sangrajran, Q.T. Nguyen, G.N. Huong, A.N. Soe, D.N. Sharma, M. Sengar, C.S. Pramesh, T. Matsuda, A.M. Jarrahi, and W. Hwang, The Impact of COVID-19 on Cancer Care in the Post Pandemic World: Five Major Lessons Learnt from Challenges and Countermeasures of Major Asian Cancer Centres. Asian Pac J Cancer Prev, 2021. 22(3): p. 681-690.

15） Gatellier, L. and T. Matsuda, Age-specific incidence rate of brain and nervous system malignancy in the world. Jpn J Clin Oncol, 2021.

２．学会発表

1） Shimoi, T., A. Saito, H. Charvat, T. Matsuda, and K. Yonemori. Incidence and geographic distribution of bone and soft tissue sarcoma in Japan using a nationwide population-based analysis: 69,734 cases. in ESMO Congress 2022. 2022 Sep. Paris.

2） Saito, A., H. Charvat, T. Shimoi, T. Matsuda, and K. Yonemori. The correlation between the geographical distribution of asbestos-exposed workplaces and the increased risk of developing malignant mesothelioma, lung cancer, laryngeal cancer, and ovarian cancer: A nationwide population-based analysis in Japan. in ESMO Congress 2022. 2022 Sep. Paris.

3） Matsuda, T. History of Challenges in Evidence-Based Cancer Prevention and Control in Japan and Prospects for Collaboration in Asia. in China International Fair for Trade in Services. 2022 Sep. Beijing, China.

4） Trama, A., T. Matsuda, H. Charvat, R.R. Chun-Ju Chiang, A.J. Van Gestel, F. Martin,

G. Geleijnse, S. Bonfarnuzzo, L.F. Licitra, S. Cavalieri, C. Resteghini, G. Gatta, and L. Botta. Survival differences between EU and Asia for head and neck cancer: results of the RARECAREnet-Asia collaboration. in ESMO Asia Congress 2022. 2022 Nov. Singapore.

5） Trama, A., R. Chiang, T. Matsuda, H. Charvat, A. van Gestel, F. Martin, G. Geleijnse, S. Bonfarnuzzo, L. Licitra, S. Cavalieri, C. Resteghini, G. Gatta, and L. Botta. HEAD AND NECK CANCER SURVIVAL DIFFERENCES BETWEEN EU AND ASIA: RESULTS OF THE RARECARENET-ASIA COLLABORATION. in IACR 2022 VIRTUAL SCIENTIFIC CONFERENCE. 2022 Nov.

6） Sugiyama, H., M. Konda, K. Saika, and T. Matsuda. TIME TREND AND GEOGRAPHICAL VARIATION OF RARE CANCER INCIDENCE IN JAPAN: 2011-2018. in IACR 2022 VIRTUAL SCIENTIFIC CONFERENCE. 2022 Nov.

7） Matsuda, T. Epidemiology: Joint data analyses and comparisons between Asia and Europe. in ESMO Asia Congress 2022. 2022 Nov. Singapore.

8） Friestino, J., P. Francisco, D. Rodrigues, and T. Matsuda. Cancer Incidence and survival among children, adolescents and young adults in Campinas –SP, Brazil. in IACR 2022 VIRTUAL SCIENTIFIC CONFERENCE. 2022 Nov.

9） 杉山裕美, 紺田真微, 雑賀公美子, and 松田智大, 全国がん登録データに基づくRARECAREnet list を用いた都道府県別がん罹患率比較. Journal of Epidemiology, 2022. 32(Suppl.1): p. 94.

10） 谷山祐香里, 尾瀬功, 小柳友理子, 伊藤ゆり, 松田智大, 松尾恵太郎, and 伊藤秀美, 住民ベースのがん罹患情報を用いた非小細胞肺がん患者の予後における分子標的薬による影響の評価. Journal of Epidemiology, 2022. 32(Suppl.1): p. 94.

11） 伊藤ゆり, 堀芽久美, 福井敬祐, 太田将仁, 中田佳世, 杉山裕美, 伊藤秀美, 大木いずみ, 西野善一, 宮代勲, 片野田耕太, 柴田亜希子, and 松田智大, 20 年間でがん患者の生存率は向上したか?6 府県の住民ベースのがん登録による検討. Journal of Epidemiology, 2022. 32(Suppl.1): p. 90.

12） Siesling, S., A. Trama, K. Kraywinkel, T. Matsuda, and G. Gelijnse. Sharing Real World Data Without Data Transfer. in World Cancer Congress. 2022. Geneva, Switzerland.

13） Matsuda, T. and Y.J. Won. Describing "cancer" from population-based data: Updated Approach. 第 81 回日本癌学会学術総会 [会議録] 2022 2022.9.

伊藤　ゆり（研究分担者）

１．論文発表

1） Gatellier L, Charvat H, Ito Y, Matsuda T: Do the general public get cancer statistics?-a questionnaire survey in Japan. Jpn J Clin Oncol 2024.doi: 10.1093/jjco/hyae007

2） Tsuge H, Kawakita D, Taniyama Y, Oze I, Koyanagi YN, Hori M, Nakata K,

Sugiyama H, Miyashiro I, Oki I, Nishino Y, Katanoda K, Ito Y, Shibata A, Matsuda T, Iwasaki S, Matsuo K, Ito H: Subsite-specific trends in mid- and long-term survival for head and neck cancer patients in Japan: A population-based study. Cancer Sci 2023.doi: 10.1111/cas.16028

3） Ota M, Taniguchi K, Asakuma M, Lee SW, Ito Y: Trends in the stage distribution of colorectal cancer during the COVID-19 pandemic in Japan: a nationwide hospital-claims data analysis. J Epidemiol 2023, advpub.doi: 10.2188/jea.JE20220347

4） Ohbiki M, Ito Y, Inamoto Y, Miyamura K, Uchida N, Fukuda T, Fujiwara H, Nishida T, Hayashi M, Tanaka M, Kawakita T, Ikegame K, Katayama Y, Ara T, Ichinohe T, Kiyoi H, Matsuo K, Atsuta Y: Improved long-term net survival after allogeneic hematopoietic cell transplantation in patients with hematologic malignancies over two decades. Transplant Cell Ther 2023, 29(12):768.e761-768.e710.doi: 10.1016/j.jtct.2023.09.010

5） Kataoka A, Ota M, Taniguchi K, Komura K, Ito Y: Clinical Epidemiological Studies of Colorectal Cancer by Record Linkage of Cancer Registries and Biospecimen Data: A Systematic Review. Asian Pac J Cancer Prev 2023, 24(12):4017-4023.doi: 10.31557/apjcp.2023.24.12.4017

6） Kaneko N, Nishino Y, Ito Y, Nakaya T, Kanemura S: Association of Socioeconomic Status Assessed by Areal Deprivation with Cancer Incidence and Detection by Screening in Miyagi, Japan between 2005 and 2010. J Epidemiol 2023, 33(10):521-530.doi: 10.2188/jea.JE20220066

7） Hanafusa M, Ito Y, Ishibashi H, Nakaya T, Nawa N, Sobue T, Okubo K, Fujiwara T: Association between socioeconomic status and net survival after primary lung cancer surgery: a tertiary university hospital retrospective observational study in Japan. Jpn J Clin Oncol 2023, 53(4):287-296.doi: 10.1093/jjco/hyac204

8） Charvat H, Fukui K, Matsuda T, Katanoda K, Ito Y: Impact of cancer and other causes of death on mortality of cancer patients: A study based on Japanese population-based registry data. Int J Cancer 2023, 153(6):1162-1171.doi: 10.1002/ijc.34610

２．学会発表

1） 伊藤ゆり. 第４期がん対策推進基本計画における健康格差の視点～格差指標の計測～ 第 4 回かごしまデータ科学シンポジウム; 2023 7/28; 鹿児島,サンプラザ天文館: 口演 オンコロジーセッション; 2023.

2） Ito Y. Local view:Socioeconomic Inequalities in HPV-related Cancer Outcome in Japan. IPVC. 2023 4/18; Washington DC, USA.: Public Health Workshop 5: Equity In Cancer Prevention and Control.

3） 伊藤ゆり: 誰一人取り残さないがん対策～第 4 期がん対策推進基本計画におけるロジックモデルの考え方 と評価指標～. In: 第 64 回日本肺癌学会学術集会 11/3 2023; 幕張メッセ 国際会議場: 教育研修委員会企画就労両立支援 セ

ッション[招待口演]; 2023.

4） 伊藤ゆり: ロジックモデルを活用したがん計画～その考え方と評価指標～. In: 一般社団法人全国がん患者団体連合会 シンポジウム: 5/31 2023; オンライン: 口演　2023.

5） 八木麻未, 上田　豊, 岡愛美子, 角田守, 池田さやか, 榊原敦子, 伊藤ゆり, 中田佳世, 森島敏隆, 宮代　勲, 木村　正: 大阪府がん登録データを用いた HPV 関連がん年齢調整罹患率の動向（1977-2019 年）. In: 日本がん登録協議会第 32 回学術集会: 2023; 青森, リンクモア平安閣市民ホール: 口演（最優秀口演賞受賞）; 2023.

6） 八木 麻未, 上田 豊, 岡 愛美子, 角田 守, 池田 さやか, 榊原 敦子, 伊藤 ゆり, 中田 佳世, 森島 敏隆, 宮代 勲, 正 木: 大阪府がん登録データによる子宮頸がん年齢調整罹患率の動向(1977-2019 年). 日本癌治療学会学術集会抄録集 61 回 2023, 61:O69-62.

7） 岡愛実子, 八木麻未, 上田豊, 榊原敦子, 伊藤ゆり: 日本産科婦人科学会腫瘍登録のカバー率 -全国がん登録 2016～2019 年罹患データとの比較-. In: 日本がん登録協議会第 32 回学術集会: 6/9 2023; 青森, リンクモア平安閣市民ホール: 口演 2023.

8） Sakane J, Ota M, Nakaya T, Ito Y: Characteristics and survival of breast cancer patients in Japanese designated and non-designated cancer care hospitals. In: ENCR-IACR 2023 Scientific Conference. Granada, Escuela Andaluza de Salud Pública(EASP): [Poster]; 2023.

9） Oka E, Ueda Y, Yagi A, Kakuda M, Kobayashi E, Sakakibara A, Ito Y, Kimura T: Trend of treatment proportion and outcome for stage IB2 and IIB cervical cancer in Japan. In: 第 75 回日本産科婦人科学会学術講演会: 5/13 2023; 東京, 東京国際フォーラム: 口演"International Session Workshop JSOG Congress Encouragement Award 受賞"; 2023.

大木　いずみ（研究分担者）

１．論文発表

1） 大木いずみ、藤田伸．新型コロナウイルス感染ががん診療に及ぼす影響：栃木県 18 施設のがん登録を用いた検討. 日本公衆衛生雑誌；2023；70：564-571.

３．その他

1） https://canobs.jp

片野田　耕太（研究分担者）

１．論文発表

1） Phuong The Nguyen, Eiko Saito, Kota Katanoda. Cancer Prevalence Projections in Japan and Decomposition Analysis of Changes in Cancer Burden, 2020–2050: A Statistical Modeling Study. Cancer Epidemiol Biomarkers Prev 2023;32:1756–70.

２．学会発表

1） Nguyen, P.T., Hori, M., Matsuda, T., Katanoda, K. Cancer prevalence projections in Japan and changes in cancer burden, 2020-2050: A statistical modeling study. in The 82nd Annual Meeting of the Japanese Cancer Association. 2023.Sep. 21.

Yokohama, Japan.Oct. 1 Yokohama, Japan.

杉山　裕美（研究分担者）

１．論文発表

1） Sugiyama H, Konda M, Saika K, Trama A, Matsuda T. Increased incidence of rare cancers and varied age distributions by cancer group: A population-based cancer registry study in Hiroshima prefecture, Japan. Cancer Epidemiol 2023 (April); 83:102336

2） Utada M, Brenner AV, Preston DL, Yamada M, Grant EJ, Sugiyama H, Sakata R, Cahoon EK, Ozasa K, Mabuchi K. The effect of prostate-specific antigen (PSA) test on radiation risk estimate for prostate cancer incidence among atomic-bomb survivors. Radiat Res 2023 (July); 200(1):96-101

3） Nakata K, Matsuda T, Hori M, Sugiyama H, Tabuchi K, Miyashiro I, Matsumoto K, Yoneda A, Takita J, Shimizu C, Katanoda K. Cancer incidence and type of treatment hospital among children, adolescents and young adults in Japan, 2016-2018. Cancer Sci 2023 (September); 114(9):3770-82

4） Sugiyama H, Ozasa K, Kohata S, Sasaki H, Fujikawa K, Tamaki M, Takeshima Y, Kajihara H, Matsumura M. Registry summary tables: Japan, Hiroshima prefecture (2014-2017). Cancer incidence in Five Continents Volume XII (IARC Scientific Publications No. 169) 2023/10/09 [Epub]:1-4

5） Tsuge H, Kawakita D, Taniyama Y, Oze I, Koyanagi YN, Hori M, Nakata K, Sugiyama H, Miyashiro I, Oki I, Nishino Y, Katanoda K, Ito Y, Shibata A, Matsuda T, Iwasaki S, Matsuo K, Ito H. Subsite-specific trends in mid- and long-term survival for head and neck cancer patients in Japan: A population-based study. Cancer Sci 2024 (February); 115(2):623-34

２．学会発表

1） 小笹晃太郎、Grant EJ、坂田　律、Brenner AV、杉山裕美、歌田真依、門脇ゆう子、Cullings HM、Sposto R、Cologne JB、三角宗近、Preston DL、Cahoon EK、馬淵清彦. 原爆被爆者の寿命調査におけるがん罹患の放射線リスク. 第 33 回 日本疫学会学術総会（浜松）2023

2） Brenner AV, Sugiyama H, Preston DL, Sakata R, Cologne JB, Utada M, Grant EJ, Ozasa K, Mabuchi K. Radiation risk of thyroid cancer in the Life Span Study of Japanese atomic bomb survivors: 1958-2009. International Society of Radiation Epidemiology and Dosimetry-1st meeting (Sitges, Spain). 2023

3） 杉山裕美、野崎彩乃、原上沙織、紺田真微、小田崇志．広島県の住民ベースがん登録に基づくがん患者の拠点病院への集約化と患者特性との関連．日本がん登録協議会第 32 回学術集会（青森）2023

4） 野崎彩乃、小田崇志、原上沙織、紺田真微、伊藤　桂、中村美保子、吉田生恵、清水紀子、杉山裕美．広島県住民ベースがん登録に基づく二次保健医療圏別のがん患者の住所と初診断・治療病院住所との関連．日本がん登録協議

会第 32 回学術集会（青森）2023

5） Misumi M, Sugiyama H. An investigation on the lack of association between radiation and rectal cancer incidence in the atomic bomb survivor cohort. 17th International Congress of Radiation Research (Montreal, Canada) 2023

6） 篠原裕子、久松美晴、佐々美佐紀、水藤　薫、吉田匡良、野口智佳、永吉明子、田浦風花、長田　芳、杉山裕美. 分かりやすい説明を目指した「長崎県がん登録簡易マニュアル」の作成. 日本がん登録協議会第 32 回学術集会（青森）2023

7） 杉山裕美、紺田真微、雑賀公美子、松田智大. 住民ベースがん登録に基づくがん患者の住所と病院住所との関連. がん予防学術大会（金沢）2023

8） 歌田真依、西阪　隆、杉山裕美、門脇ゆう子、Brenner AV、坂田　律. 原爆被爆者における子宮体がんの放射線影響：1958-2011 年. がん予防学術大会（金沢）2023

9） 三角宗近、杉山裕美. 原爆被爆者の大腸がんリスク解析における統計的検討. 統 2023 年度計関連学会連合大会（京都）2023

10） 三角宗近、杉山裕美. 原爆被爆者における放射線、腺腫ポリープおよび直腸癌発生率の関係. 日本放射線影響学会第 66 回大会（東京） 2023

11） 歌田真依、西阪　隆、杉山裕美、門脇ゆう子、Brenner AV、坂田　律. 原爆被爆者における子宮体がんの放射線影響：1958-2011 年. 日本放射線影響学会第 66 回大会（東京） 2023

12） Brenner AV, Preston DL, Sugiyama H, Cologne JB, Sakata R, Grant EJ, Utada M, Cahoon EK, Sposto R, Ozasa K, Mabuchi K. Analysis of solid cancer incidence in the LSS of atomic bomb survivors: 1958-2009. ICRP 2023, 7th International Symposium on the System of Radiological Protection (Tokyo) 2023

13） Sugiyama H, Konda M, Saika K, Matsuda T. Centralization of cancer patients to designated cancer care hospitals in Japan. ENCR-IACR 2023 Scientific Conference (Granada, Spain) 2023

西野　善一（研究分担者）

２．学会発表

1） 瀧口知彌、西野善一、松田智大. 北信地域におけるがん診療連携拠点病院の整備状況とがん患者の予後との関連. がん予防学術大会 2023 金沢（第 30 回日本がん予防学会総会、第 46 回日本がん疫学・分子疫学研究会総会合同学術集会）、2023 年 9 月、金沢.

阿部　サラ（研究分担者）

１．論文発表

1） Yin X, Kishida R, Abe SK, Islam MR, Rahman MS, Saito E, et al. Inoue M, … Association between reproductive factors with lung cancer incidence and mortality: A pooled analysis of over 308,000 females in the Asia cohort consortium. Int J Cancer. 2024.

2） Yang JJ, Wen W, Zahed H, Zheng W, Lan Q, Abe SK, et al. Inoue M, … Lung Cancer Risk Prediction Models for Asian Ever-

Smokers. J Thorac Oncol. 2024;19(3):451-64.

3） Shin A, Cho S, Abe SK, Islam MR, Rahman MS, Saito E, et al. , Inoue M, Kang D. Association of female reproductive and hormonal factors with gallbladder cancer risk in Asia: A pooled analysis of the Asia Cohort Consortium. Int J Cancer. 2024.

4） Oze I, Ito H, Koyanagi YN, Abe SK, Rahman MS, Islam MR, et al. Inoue M, … Obesity is associated with biliary tract cancer mortality and incidence: A pooled analysis of 21 cohort studies in the Asia Cohort Consortium. Int J Cancer. 2024;154(7):1174-90.

5） Nabila S, Choi JY, Abe SK, Islam MR, Rahman MS, Saito E, et al. Inoue M, Kang, D Differential patterns of reproductive and lifestyle risk factors for breast cancer according to birth cohorts among women in China, Japan and Korea. Breast Cancer Res. 2024;26(1):15.

6） Manandhar Shrestha R, Mizoue T, Islam Z, Kawakatsu Y, Ito H, Wada K, et al, Abe SK, Inoue M. Adult Height and Risk of Colorectal Cancer: A Pooled Analysis of 10 Population-based Cohort Studies in Japan. Journal of epidemiology / Japan Epidemiological Association. 2024;34(2):94-103.

7） Kawai S, Lin Y, Tsuge H, Ito H, Matsuo K, Wada K, et al, Abe SK, Inoue M. Body mass index and lung cancer risk: Pooled analysis of 10 prospective cohort studies in Japan. Cancer Sci. 2024.

8） Saito E, Tanaka S, Abe SK, Hirayabashi M, Ishihara J, Katanoda K, et al., Inoue M Economic burden of cancer attributable to modifiable risk factors in Japan. Glob Health Med. 2023;5(4):238-45.

9） Ong SK, Abe SK, Gek Phua GL, Jayasekara H, Togawa K, Gatellier L, et al. , Inoue M, Matsuda T. Mapping recommendations towards an Asian Code Against Cancer (ACAC) as part of the World Code Against Cancer Framework: an Asian National Cancer Centers Alliance (ANCCA) initiative. The Lancet Regional Health - Southeast Asia. 2023:100316.

10） Ong SK, Abe SK, Thilagaratnam S, Haruyama R, Pathak R, Jayasekara H, et al. Towards elimination of cervical cancer - human papillomavirus (HPV) vaccination and cervical cancer screening in Asian National Cancer Centers Alliance (ANCCA) member countries. Lancet Reg Health West Pac. 2023;39:100860.

11） Koyanagi YN, Matsuo K, Ito H, Wang C, Tamakoshi A, Sugawara Y, et al. Abe SK, Inoue M Body mass index and esophageal and gastric cancer: A pooled analysis of 10 population-based cohort studies in Japan. Cancer Sci. 2023;114(7):2961-72.

12） Katagiri R, Iwasaki M, Abe SK, Islam MR, Rahman MS, Saito E, et al. , Inoue M, Kang D Reproductive Factors and Endometrial Cancer Risk Among Women. JAMA Netw Open. 2023;6(9):e2332296.

２．学会発表

1） The 82nd Annual Meeting of the Japanese Cancer Association, September 21-23,

2023. Yokohama, Japan

2） -Sarah K. Abe, Laureline Gatellier, et al. : Toward an Asian Code Against Cancer. (oral presentation

3） -Shafiur Rahman, Mahfuzur Rahman, Sarah Abe : Disparities in cancer screening uptake among Indian women aged 30-49 years. (oral presentation)

4） -Isao Oze, Hidemi Ito, Yuriko Koyanagi, Sarah Abe, et al : Obesity is associated with biliary tract cancer risk: a

5） pooled analysis of 21 cohorts in the Asia Cohort Consortium.(oral presentation)

6） -Mahfuzur Rahman, Shafiur Rahman, Sarah K. Abe : Inequality in cervical cancer screening among Nepalese women: evidence from a population-based survey. (poster)

7） The 34th Annual Meeting of the Japanese Epidemiological Association, January 31 – February 2, 2024. Shiga, Japan

8） -Eiko Saito, Shiori Tanaka, Sarah Krull Abe, Manami Inoue. Economic burden of cancer attributable to modifiable risk factors in Japan. (oral presentation)

春山　怜（研究分担者）

１．論文発表

1） Ong SK, Haruyama R, Yip CH, et al. Feasibility of monitoring Global Breast Cancer Initiative Framework key performance indicators in 21 Asian National Cancer Centers Alliance member countries. EClinicalMedicine. 2023;67:102365. Published 2023 Dec 16.

2） Hang S, Haruyama R, Uy K, et al. Feasibility, accuracy and acceptability of self-sampled human papillomavirus testing using careHPV in Cambodia. J Gynecol Oncol. 2024;35(1):e6.

3） Tanaka A, Koun L, Haruyama R, et al. Clinical features of cervical cancer at a national cancer center in Phnom Penh, Cambodia: A descriptive cross-sectional study. GHM Open. Advance online publication June 18, 2023.

２．学会発表

1） Haruyama R. Japanese symposium: What shall Japan do to meet the global goal and targets to eliminate cervical cancer. IPVC 2023. Washington DC, USA (online)、2023 年 4 月、招待講演

2） Hang S, Haruyama R, Pech S, Koun L, Chhit M,Kim L, Uy K, Kawana K, Fujita N, Osuga Y, Koum K, Kimura T. Concordance in high-risk HPV detection between self- and clinician-sampled HPV testing and acceptability of self-sampling in Cambodia. 第 75 回日本産科婦人科学会学術講演会、東京、2023 年 5 月

3） Koun L, Haruyama R, Uy K, et al. Cervical cancer situation in KSFH. The 22nd Symposium of SCGO, Phnom Penh, Cambodia、2023 年 11 月

雑賀　公美子（研究分担者）

１．論文発表

1） Saika K. Projection of the number of new cases of uterine cancer in the world. Jpn J Clin Oncol 2024; 54:108-109.

2） Okawa S, Saika K. Projection of the number of new cases of breast cancer in the

world. Jpn J Clin Oncol 2023; 53:1215-1216.

3） 3. Sripan P, Saika K. Projection of the number of new colorectal and anus cancer cases in the world. Jpn J Clin Oncol 2023; 53:633-634.

4） Zhang L, Mosquera I, Lucas E, Luz Rol M, Carvalho Andre L, Basu P; CanScreen5 collaborators. CanScreen5, a global repository for breast, cervical and colorectal cancer screening programs. Nat Med 2023; 29:1135-1145.

5） Saika K, Matsuda T. Projection of the number of new cancer cases in the world. Jpn J Clin Oncol 2023; 53:454-455.

6） Sugiyama H, Konda M, Saika K, Trama A, Matsuda T. Increased incidence of rare cancers and varied age distributions by cancer group: A population-based cancer registry study in Hiroshima Prefecture, Japan. Cancer Epidemiol 2023; 102336.

２．学会発表

1） 雑賀公美子. がん対策としての乳がん検診のあり方について. 第 64 回日本人間ドック学会学術大会, 高崎（群馬）, 9 月, 2023.

2） 雑賀 公美子. がん登録を利用したがん検診の精度管理　がん検診の精度管理評価にがん登録情報を利用するために必要なことの整理. 日本がん登録協議会　第 32 回学術集会, 青森（青森）, 6 月, 2023.

伊藤　秀美（研究分担者）

１．論文発表

1） Tsuge H, Kawakita D, Taniyama Y, Oze I, Koyanagi YN, Hori M, Nakata K, Sugiyama H, Miyashiro I, Oki I, Nishino Y, Katanoda K, Ito Y, Shibata A, Matsuda T, Iwasaki S, Matsuo K, Ito H. Subsite-specific trends in mid- and long-term survival for head and neck cancer patients in Japan: A population-based study. Cancer Sci. 2024 Feb;115(2):623-634.

2） Tsutsui A, Ando N, Taniyama Y, Fujimaki T, Kawaura M, Matsuo K, Ito H, Ohno Y. Trends of travel burdens to access cancer care among children with cancer: analysis of a population-based cancer registry data in Aichi, Japan. Nagoya J Med Sci. 2023 Aug;85(3):542-554.

3） Usui Y, Ito H, Katanoda K, Matsuda T, Maeda Y, Matsuo K. Trends in non-Hodgkin lymphoma mortality rate in Japan and the United States: A population-based study. Cancer Sci. 2023 Oct;114(10):4073-4080.

２．学会発表

1） Changes in survival of patients with non-small cell lung cancer in Japan: an interrupted time series study. Yukari Taniyama, Isao Oze, Yuriko Koyanagi, Yukino Kawakatsu, Yuri Ito, Tomohiro Matsuda, Keitaro Matsuo, Tetsuya Mitsudomi, Hidemi Ito. 第 82 回日本癌学会学術総会. 2023.9.21. 横浜. ポスター

2） Geographical inequality in cancer in Japan: spatial epidemiology and mediation analysis using public data. Hidemi Ito. 第 82 回日本癌学会学術総会. 2023.9.21. 横浜. シンポジウム

3） Urbanicity affects the associations between

socioeconomic status and cancer incidence and mortality. Yuriko N Koyanagi, Keitaro Matsuo, Masanori Kawaura, Yukari Taniyama, Isao Oze, Tomoki Nakaya, Takahiro Otani, Kunihiko Takahashi, Rui Yamaguchi, Hidemi Ito. ENCR 2023 IACR Scientific Conference. 2023.11.15. スペイン、グラナダ. ポスター.

4） がん罹患及び死亡と地理的剥奪指標との関連の臓器別・都市度別評価. 伊藤 秀美,小栁友理子,川浦 正規,尾瀬 功,谷山祐香里,大谷 隆浩,中谷 友樹,高橋 邦彦,山口 類,松尾 恵太郎. 第 34 回 日本疫学会学術総会. 2024.2.1. 大津. 口演

5） 地理的な社会経済的状況は喫煙を介してがん死亡に影響するか：媒介分析による評価. 谷山 祐香里,古橋 真由,川浦 正規,小柳 友理子,尾瀬功,松尾 恵太郎,伊藤 秀美. 第 34 回 日本疫学会学術総会. 2024.2.2. 大津. ポスター.

中田 佳世（研究分担者）

１．論文発表

1） Nakata K, Matsuda T, Hori M, Sugiyama H, Tabuchi K, Miyashiro I, Matsumoto K, Yoneda A, Takita J, Shimizu C, Katanoda K. Cancer incidence and type of treatment hospital among children, adolescents, and young adults in Japan, 2016-2018. Cancer Sci. 2023 Sep;114(9):3770-3782.

2） Nakata K, Okawa S. Projection of the number of new liver cancer cases in the world. Jpn J Clin Oncol. 2023 Oct 4;53(10):998-999.

3） Kuwabara Y, Morishima T, Kudo H, Ma C, Kato MS, Koyama S, Nakata K, Tabuchi T, Miyashiro I. Prognostic impact of coexisting cardiovascular disease in patients with cancer: A multicenter retrospective cohort study. Heliyon. 2024 Feb 5;10(3):e25594.

4） Gatellier L, Nakata K. Projection of the number of new cases of ovarian cancer in the world. Jpn J Clin Oncol. 2024 Feb 7;54(2):227-228.

5） Tsuge H, Kawakita D, Taniyama Y, Oze I, Koyanagi YN, Hori M, Nakata K, Sugiyama H, Miyashiro I, Oki I, Nishino Y, Katanoda K, Ito Y, Shibata A, Matsuda T, Iwasaki S, Matsuo K, Ito H. Subsite-specific trends in mid- and long-term survival for head and neck cancer patients in Japan: A population-based study. Cancer Sci. 2024 Feb;115(2):623-634.

6） Charvat H, Nakata K. Projection of the number of new cases of kidney and renal pelvis cancer in the world. Jpn J Clin Oncol. 2023 Nov 5;53(11):1096-1097.

7） Lopez-Cortes A, Didonè F, Botta L, Hjalgrim LL, Jakab Z, Canete Nieto A, Stiller C, Zeller B, Gatta G, Pritchard-Jones K; BENCHISTA Project Working Group（Working member として Nakata K）. Cancer data quality and harmonization in Europe: the experience of the BENCHISTA Project - international benchmarking of childhood cancer survival by stage. Front Oncol. 2023 Aug 22;13:1232451.

8） Kato M, Nakata K, Morishima T, Kuwabara Y, Fujisawa F, Kittaka N, Nakayama T, Miyashiro I. Fifteen-year

survival and conditional survival of women with breast cancer in Osaka, Japan: A population-based study. Cancer Med. 2023 Jun;12(12):13774-13783.

9） 中田佳世, 松田智大, 宮代勲. 【希少固形がんの診断と治療】小児希少固形がんの疫学. 小児外科 2023;55(8): 816-819.

10） 中田佳世, 宮代勲, 松浦成昭. AYA 世代がん患者をネットワークで支える. 大阪府がん診療連携協議会小児・AYA 部会の活動. 日本小児血液・がん学会雑誌. 2023;59(5):331-337.

２. 学会発表

1） 中田佳世、島津美寿季、平松英文、藤崎弘之、宮代 勲、滝田順子. 近畿ブロックにおける小児がんの患者家族のニーズに関する調査研究. 第 65 回日本小児血液・がん学会学術集会. 2023 年 9 月、札幌市、ポスター発表

2） 原加奈子、中田佳世、石田理恵、井上容子、浅尾朋子、久馬麻希、花原聡、森島敏隆、栗原佳宏、宮代勲. 院内がん登録からみた大阪府における AYA 世代のがん. 日本がん登録協議会第 32 回学術集会. 2023 年 6 月、青森市、ポスター発表

3） 花原聡, 久馬麻希, 森島敏隆, 石田理恵, 原加奈子, 加藤美寿季, 栗原佳宏, 中田佳世, 宮代勲. 全国がん登録における PDF 形式届出医療機関に向けたフィードバックの取り組み. 日本がん登録協議会第 32 回学術集会. 2023 年 6 月、青森市、ポスター発表

4） 八木麻美、上田豊、岡愛美子、角田守、池田さやか、榊原敦子、伊藤ゆり、中田佳世、森島敏隆、宮代勲、木村正. 大阪府がん登録データを用いた HPV 関連がんの年齢調整罹患率比較. 日本がん登録協議会第 32 回学術集会. 2023 年 6 月、青森市、口演発表（最優秀口演賞受賞）

5） 八木麻未, 上田豊, 岡愛美子, 角田守, 池田さやか, 榊原敦子, 伊藤ゆり, 中田佳世, 森島敏隆, 宮代勲, 木村正. 大阪府がん登録データによる子宮頸がん年齢調整罹患率の動向(1977-2019 年).第 61 回日本癌治療学会学術集会. 2023 年 10 月.

6） 島津美寿季、中田佳世、森島敏隆、工藤榛香、小山史穂子、馬超辰、田淵貴大、宮代勲. 乳がんの 15 年相対生存率～大阪府がん登録データを用いた分析. 第 82 回日本公衆衛生学会総会. 2023 年 11 月、つくば市、口演発表

7） 栗原佳宏、森島敏隆、工藤榛香、島津美寿季 小山史穂子、中田佳世、田淵貴大、宮代勲. がん患者におけるがん診断時の糖尿病併存とがん診断・治療後の心血管疾患発症および生存率との関連. 第 34 回日本疫学会学術総会. 2024 年 2 月、大津市、ポスター発表

工藤 榛香（研究分担者）

１. 論文発表

1） Kudo H, Nakata K, Morishima T, Shimadzu-Kato M, Kuwabara Y, Sawada A, Fujisaki H, Hashii Y, Miyashiro I. Prevalence of survivors of childhood cancer based on a population-based cancer registry in Osaka, Japan. Int J Cancer. 2024. ahead of print.

2） Kuwabara Y, Morishima T, Kudo H, Ma C,

Shimadzu-Kato M, Koyama S, Nakata K, Tabuchi T, Miyashiro I. Prognostic impact of coexisting cardiovascular disease in patients with cancer: A multicenter retrospective cohort study. Heliyon. 2024;10(3):e25594.

3） Kudo H, Morishima T, Fujii M, Nagayasu M, Ma C, Sobue T, Ohno Y, Miyashiro I. Prognostic impact of the presence or absence of prior cancer in patients with cancer using cure models: A population-based study. Cancer Sci. 2023;114(10):4041-4051.

4） Ma C, Jung CR, Nakayama SF, Tabuchi T, Nishihama Y, Kudo H, Morishima T, Ohno Y, Sobue T, Miyashiro I. Short-term association of air pollution with lung cancer mortality in Osaka, Japan. Environ Res. 2023;224:115503.

5） Nagayasu M, Morishima T, Fujii M, Kudo H, Sobue T, Ohno Y, Miyashiro I. Age-Dependent Causes of Death among Patients with Breast Cancer Based on Osaka Cancer Registry and Vital Statistics in Japan. Healthcare. 2023;11(10):1409.

２．学会発表

1） Soerjomataram I, Hawkins S, Jeyaraj A, Ervik M, Aitken J, Gordon A, López-González R, Aragonés N, Bray F, Foley D, Matsuda T, Tanitame M, Peris-Bonet R, Kucukali H, Bennett D, Murray D, Youlden D, Ardanaz E, Guevara M, Kudo H. Canstaging+ and staging childhood cancer for population-based cancer registries. ENCR IACR Scientific Conference. Granada, Spain, 2023 年 11 月（口演）.

（R6 年度）

松田　智大（研究代表者）

１．論文発表

1） Tsuge, H., D. Kawakita, Y. Taniyama, I. Oze, Y.N. Koyanagi, M. Hori, K. Nakata, H. Sugiyama, I. Miyashiro, I. Oki, Y. Nishino, K. Katanoda, Y. Ito, A. Shibata, T. Matsuda, S. Iwasaki, K. Matsuo, and H. Ito, Subsite-specific trends in mid- and long-term survival for head and neck cancer patients in Japan: A population-based study. Cancer Sci, 2024. 115(2): p. 623-634.

2） Sugiyama, H., M. Konda, K. Saika, and T. Matsuda, Time trend analysis of rare cancer incidence 2011-2018: Nationwide population-based cancer registries in Japan. Cancer Sci, 2024. 115(7): p. 2417-2443.

3） Saika, K. and T. Matsuda, Projection of the number of new laryngeal cancer cases in the world. Jpn J Clin Oncol, 2024. 54(9): p. 1057-1058.

4） Rahman, M.S., M.M. Rahman, K. Acharya, R. Haruyama, R. Shah, T. Matsuda, M. Inoue, and S.K. Abe, Disparities and Determinants of Testing for Early Detection of Cervical Cancer among Nepalese Women: Evidence from a Population-Based Survey. Cancer Epidemiol Biomarkers Prev, 2024. 33(8): p. 1046-1056.

5） Rahman, M.M., M.S. Rahman, M.R. Islam, S. Gilmour, R. Haruyama, A. Budukh, A. Shankar, G. Mishra, R. Mehrotra, T. Matsuda, M. Inoue, and S.K. Abe, Regional variations and inequalities in

testing for early detection of breast and cervical cancer: evidence from a nationally representative survey in India. J Epidemiol, 2024.

6） Ota, M., K. Taniguchi, M. Hori, K. Katanoda, K. Nakata, I. Miyashiro, T. Matsuda, S.W. Lee, and Y. Ito, Trends in patterns of treatment and survival of colorectal cancer patients using cancer registry data in Japan: 1995-2015. Cancer Sci, 2024. 115(8): p. 2786-2794.

7） Ong, S.K., R. Haruyama, C.H. Yip, T.T. Ngan, J. Li, D. Lai, Y. Zhang, S. Yi, A. Shankar, E. Suzanna, S.Y. Jung, P.J. Ho, A. Yusuf, A. Nessa, K.W. Jung, E. Fernando, S. Baral, M. Bagherian, P. Pradhan, U. Jugder, C. Vongdala, S.N. Yusof, K. Thiri, P. Sripan, C. Cairo, T. Matsuda, S. Sangrajran, V. Kiak-Mien Tan, R. Mehrotra, and B.O. Anderson, Feasibility of monitoring Global Breast Cancer Initiative Framework key performance indicators in 21 Asian National Cancer Centers Alliance member countries. EClinicalMedicine, 2024. 67: p. 102365.

8） Ong, S.K., S.K. Abe, G.L. Gek Phua, H. Jayasekara, K. Togawa, L. Gatellier, J. Kim, Y. Zhang, S.Z. Kahan, S.N. Yusof, J.S. Han, C.S. Pramesh, M. Sengar, A. Shankar, C. Cairo, S. Sangrajran, E. Nansalmaa, T. Badamsuren, T. Dendup, K. Tshering, J. He, D.R. Werdi Nindito, A. Ritana, J.S. Im, E.Y. Park, G.N. Huong, T.T. Thanh Huong, M. Biglari, A. Yusuf, K.K. Pradhananga, C. Vongdala, M.T. Bin Jaafar, N.S. Ibrahim Tamin, Y.Y. Myint, K.K. Kaung, M.S. Rahman, E. Fernando, B. Rath, B. Sukumaran, W.Y. Hwang, C. Espina, J. Schuz, M. Inoue, and T. Matsuda, Mapping recommendations towards an Asian Code Against Cancer (ACAC) as part of the World Code Against Cancer Framework: an Asian National Cancer Centers Alliance (ANCCA) initiative. Lancet Reg Health Southeast Asia, 2024. 24: p. 100316.

9） Matsuzaka, M., K. Saika, R. Tanaka, T. Matsuda, and H. Saito, [Defining sensitivity and specificity for quality control of organized cancer screening using Prefectural Cancer Registry data in Japan]. Nihon Koshu Eisei Zasshi, 2024. 71(9): p. 474-482.

10） Matsuda, T. and S. Okawa, Projection of the number of new cases of thyroid cancer in the world. Jpn J Clin Oncol, 2024. 54(7): p. 833-834.

11） Gatellier, L., H. Charvat, Y. Ito, and T. Matsuda, Do the general public get cancer statistics?-a questionnaire survey in Japan. Jpn J Clin Oncol, 2024. 54(5): p. 537-548.

12） Charvat, H. and T. Matsuda, Projection of the number of new testicular cancer cases in the world. Jpn J Clin Oncol, 2024. 54(10): p. 1132-1133.

２．学会発表

1） 松田智大., 金原里恵子, 荒川歩, 田尾佳代子, and 澤田典絵. 国際共同疫学研究の進め方と今後の課題　これからの国際共同研究とデータシェア　我々に必要な内なる国際化. in 第 34 回日本疫学会学術総会. 2024. 大津.

伊藤　ゆり（研究分担者）

１．論文発表

1） 田栗 正隆, 高橋 邦彦, 小向 翔, 伊藤 ゆり, 服部 聡, 船渡川 伊久子, 篠崎 智大 , 山本 倫生, 林 賢一: 疫学分野での計量生物学の発展. 計量生物学 2024, 44(2):129-200. 10.5691/jjb.44.129

2） Sibale Mojoo D, Oze I, Tsuge H, Taniyama Y, Koyanagi YN, Yamamoto S, Hori M, Nakata K, Sugiyama H, Miyashiro I, Oki I, Nishino Y, Ito Y, Katanoda K, Shibata A, Matsuda T, Matsuo K, Ito H: Comparative Net Survival Analysis of Men and Women With Breast Cancer in Japan: A Population-Based Study. Cancer Sci 2025 Mar 31. 10.1111/cas.70068

２．学会発表

1） Sakakibara A, Ito Y, Ueda Y, Yagi A, Kakuda M, Oka E, Terakawa K, Konishi I: Survival disparities related to age and histology of cervical cancer patients in Japan (2000-2013). In: 第 76 回日本産科婦人科学会学術講演会. パシフィコ横浜 ノース: International Session Poster 8; 2024 4/19.

2） Oka E, Yagi A, Sakakibara A, Ueda Y, Ito Y, Kimura T: Regional differences in cervical cancer survival by prefectures in Japan -Application of funnel plots in excess hazard model-. In: 第 76 回日本産科婦人科学会学術講演会. パシフィコ横浜 ノース: International Session Poster 8 "Cervical Cancer - Clinical Research"; 2024 4/19.

3） 伊藤 ゆり: 地域のがん生存率をがん対策に活かす. In: 日本がん登録協議会 第 33 回学術集会: 2024 6/13; 島根 出雲市民会館: がん登録担当者研修会; 2024.

4） 高島 祐子, 坂根 純奈, 木村 光誠, 岩本 充彦, 伊藤 ゆり: 院内がん登録・DPCデータを用いた単施設における乳がん患者への緩和ケア実施状況の客観指標の検討. 第32回日本乳癌学会学術総会: 2024 7/11; 宮城, 仙台国際センター・東北大学百周年記念会館.

5） 岡 愛実子, 八木 麻未, 榊原 敦子, 上田 豊, 伊藤 ゆり: 地域・全国がん登録データとの比較による婦人科腫瘍登録のカバー率および精度の検証. 第 66 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会: 2024 7/20 ; 鹿児島、城山ホテル鹿児島: 口演; 2024.

6） 坂根純奈, 太田将仁, 中谷友樹, 伊藤ゆり: 日本の拠点および非拠点病院における女性乳がん患者の背景と生存率（Characteristics and survival of breast cancer patients in Japanese designated and non-designated cancer care hospitals）. In: 第 62 回日本癌治療学会学術集会: 2024 10/26; マリンメッセ福岡 2F 大会議室: アンコールセッション 4「乳腺・泌尿器」; 2024.

7） 髙島　祐子,梶原 奈津子,菊尾 雅子,松本 吉史,浅石 健,二瓶 圭二,伊藤 ゆり: 苦痛のスクリーニング・院内がん登録・DPC リンケージデータを活用した研究プロジェクトの紹介. In: 第 12 回 QOL-PRO 研究会学術集会: 2024 12/21; 関西医科大学 加多乃講堂; 2024.

大木　いずみ（研究分担者）

２．学会発表

1） 大木いずみ．47 都道府県のがん対策

推進計画における「がん登録」活用状況と取り組み．日本がん登録協議会第33回学術集会，2024年6月14日，出雲市

片野田　耕太（研究分担者）

１．論文発表

1） Tanaka H, Nomura S, Katanoda K. Changes in Mortality During the COVID-19 Pandemic in Japan: Descriptive Analysis of National Health Statistics up to 2022. J Epidemiol. 2025 Mar 5;35(3):154-159

２．学会発表

1） Nguyen, P.T., Hori, M., Matsuda, T., Katanoda, K. Cancer prevalence projections in Japan and changes in cancer burden, 2020-2050: A statistical modeling study. in The 82nd Annual Meeting of the Japanese Cancer Association. 2023.Sep. 21. Yokohama, Japan.Oct. 1 Yokohama, Japan.

杉山　裕美（研究分担者）

１．論文発表

2） Sugiyama H, Konda M, Saika K, Matsuda T. Time trend analysis of rare cancer incidence from 2011-2018: Nationwide population-based cancer registries in Japan. Cancer Sci 115(7):2417-43 (2024)

3） Sugiyama H, Di Carlo V, Matz M, et al. Trends in survival of patients with cutaneous melanoma in Japan, 2000-2014 (CONCORD-3) JJCO (Accepted)

4） Trends in net survival for cancers of the liver and pancreas in Japan, 2000-2014 (CONCORD-3)

5） Nishio M, Matz M, Sugiyama H, et al. JJCO (Accepted)

6） Tanaka R, Matz M, Sugiyama H, et al. Trends in net survival for prostate cancer in Japan, 2000-2014 (CONCORD-3)

7） JJCO (Accepted)

雑賀　公美子（研究分担者）

１．論文発表

1） Saika K, Matsuda T, Projection of the number of new laryngeal cancer cases in the world, Jpn J Clin Oncol, 54(9), 1057-1058, 2024.

2） Sugiyama H, Konda M, Saika K, Matsuda T, Time trend analysis of rare cancer incidence 2011-2018: Nationwide population-based cancer registries in Japan, Cancer Sci, 115(7), 2417-2443, 2024.

3） Saika K, Charvat H, Projection of the number of new cases of pancreatic cancer in the world, Jpn J Clin Oncol, 54(6), 737-738, 2024.

伊藤　秀美（研究分担者）

１．論文発表

1） Iwase M, Taniyama Y, Koyanagi YN, Kasugai Y, Oze I, Masuda N, Ito H, Matsuo K. J Epidemiol. 2024 Aug 5;34(8):387-392. A Century of Change: Unraveling the Impact of Socioeconomic/Historical Milestones on Age at Menarche and Other Female Reproductive Factors in Japan.

2） Sibale Mojoo D, Oze I, Tsuge H, Taniyama Y, Koyanagi YN, Yamamoto S, Hori M, Nakata K, Sugiyama H, Miyashiro I, Oki I, Nishino Y, Ito Y, Katanoda K, Shibata A,

Matsuda T, Matsuo K, Ito H. Cancer Sci. 2025 Mar 31 (in press). Comparative Net Survival Analysis of Men and Women With Breast Cancer in Japan: A Population-Based Study.

２．学会発表

1） 地域のがん生存率をがん医療に活かす. 伊藤秀美．日本がん登録協議会第 33 回学術集会 in 島根（招待講演）.（2024 年 6 月　島根）

2） 愛知県がん登録データにみる、希少がん患者の集約状況と生存率の変化．柘植 博之,谷山祐香里,尾瀬 功,小柳友理子,松尾恵太郎,伊藤秀美．日本がん登録協議会第 33 回学術集会 in 島根（口演）.（2024 年 6 月　島根）

3） 空間的従属性を考慮したフルベイズモデルに基づくがん死亡リスクおよび地理的剥奪指標との関連度合いの臓器別・都市度別推定．小柳友理子,川浦正規,松尾恵太郎,川勝雪乃,谷山裕香里,尾瀬功,大谷隆浩、高橋邦彦,山口類,中谷友樹,伊藤秀美．第 47 回 がん疫学・分子疫学研究会総会（ポスター発表）.（2024 年 9 月　名古屋）.

4） Impact of smoking/drinking prevalence on association between areal-level socioeconomic status and cancer mortality in Japan: A nationwide cross-sectional ecological study. Hiroshi Tsuge, Yuriko Koyanagi, Yukari Taniyama, Masanori Kawaura Isao Oze, Rui Yamaguchi, Keitaro Matsuo, Hidemi Ito. World Congress of Epidemiology 2024（ポスター発表）.（南アフリカ、ケープタウン　2024 年 9 月）

5） 地域の社会経済的格差が喫煙・飲酒を介してがんアウトカムに及ぼす影響についての媒介分析．柘植博之、小柳友理子、川浦正規、尾瀬功、松尾恵太郎、伊藤秀美．第 35 回日本疫学会学術総会（ポスター）（2025 年 2 月　高知）

中田　佳世（研究分担者）

１．論文発表

1） Shimadzu Kato M, Morishima T, Sakaniwa R, Nakata K, Kuwabara Y, Ikawa T, Iwaki Y, Miyashiro I. Temporal changes in regional variations in cancer survival rates in Osaka, Japan (1997-2015). Sci Rep. 2025 Jan 31;15(1):3854.

2） Nakata K, Gatellier L. Age-standardized mortality-to-incidence ratio for colorectal cancer in the world. Jpn J Clin Oncol. 2025 Mar 5;55(3):311-312.

3） Botta L, Didonè F, Lopez-Cortes A, Nieto AC, Desandes E, Hjalgrim LL, Jakab Z, Stiller CA, Zeller B, Gatta G, Pritchard-Jones K; BENCHISTA Project Working Group (Working member として Nakata K）. International benchmarking of stage at diagnosis for six childhood solid tumours (the BENCHISTA project): a population-based, retrospective cohort study. Lancet Child Adolesc Health. 2025 Feb;9(2):89-99.

4） Gatellier L, Nakata K. Projection of the number of new brain and central nervous system cancer cases in the world. Jpn J Clin Oncol. 2024 Dec 7;54(12):1358-1359.

5） Gatellier L, Nakata K. Projection of the number of new lymphoma cases in the

world. Jpn J Clin Oncol. 2024 Nov 2;54(11):1228-1229.

6） Okawa S, Nakata K. Projection of the number of new cases of skin cancer in the world. Jpn J Clin Oncol. 2024 Aug 14;54(8):945-946.

7） Ota M, Taniguchi K, Hori M, Katanoda K, Nakata K, Miyashiro I, Matsuda T, Lee SW, Ito Y. Trends in patterns of treatment and survival of colorectal cancer patients using cancer registry data in Japan: 1995-2015. Cancer Sci. 2024 Aug;115(8):2786-2794.

8） Kudo H, Nakata K, Morishima T, Kato MS, Kuwabara Y, Sawada A, Fujisaki H, Hashii Y, Miyashiro I. Prevalence of survivors of childhood cancer based on a population-based cancer registry in Osaka, Japan. Int J Cancer. 2024 Sep 1;155(5):839-848.

9） Nakata K, Charvat H. Projection of the number of new cases of gallbladder cancer in the world. Jpn J Clin Oncol. 2024 Apr 6;54(4):504-505.

10） Ikawa T, Kuwabara Y, Nakata K, Kanayama N, Morimoto M, Miyashiro I, Konishi K. Risk of thoracic soft tissue sarcoma after breast cancer radiotherapy: a population-based cohort study in Osaka, Japan. J Radiat Res. 2024 May 23;65(3):272-278.

11） 石田理恵、田家宗博、原加奈子、久馬麻希、花原聡、森島敏隆、中田佳世、栗原佳宏、宮代勲．がん治療における医療機関カバー割合　大阪府がん登録情報と院内がん登録全国集計報告書資料から見える違い．JACR Monograph. 2024;29:3-8.

２．学会発表

1） 中田佳世, 片野田耕太, 松田智大, 多田雄真, 宮代勲, 清水千佳子. AYA 世代における進行がん患者の実態調査. 第6回 AYA がんの医療と支援のあり方研究会学術集会. 2024. 東京都 （最優秀演題賞）

2） 多田雄真, 有馬久未, 岩田知子, 山田遥子, 樋口明子, 中田佳世, 橋井佳子, 清水千佳子. 終末期の小児・AYA 世代がん患者を対象とした在宅療養生活支援事業の実態調査. 第 6 回 AYA がんの医療と支援のあり方研究会学術集会. 2024. 東京都

3） 中田佳世．小児固形希少固形がんの疫学. 第 66 回日本小児血液・がん学会学術集会．2024．京都市

4） Nakata K. How will an Asian AYAO initiative help drive AYAO Care? The Adolescents and Young Adults Oncology (AYAO) Singapore Symposium 2024, 2024, Singapore

5） Nakata K. Epidemiology of childhood cancer in Asia. 16th Congress of Asia continental branch of International Society of Paediatric Oncology, 2024, 横浜市

6） Nakata K, Tabuchi K, Matsumoto K, Yoneda A, Yuza Y, Inoue M, Fujisaki H, Miyamura T, Kagawa N, Tokimasa S, Inoue A, Sakata N, Fujino H, Miyashiro I, Matsuda T. STAGE AT DIAGNOSIS FOR CHILDHOOD SOLID CANCERS IN JAPAN: MULTICENTER RETROSPECTIVE COHORT STUDY. 56th Congress of the International Society of Paediatric Oncology, 2024, Honolulu.

7） 工藤榛香, 中田佳世, 森島敏隆, 島津美

寿季, 栗原佳宏, 宮代勲. 大阪府がん登録を用いた小児がん経験者数の把握と有病率推計. 日本がん登録協議会 第 33 回学術集会 in 島根. 2024, 出雲市.（優秀口演賞）

8） 石田理恵, 森島敏隆、原加奈子、花原聡、久馬麻希、栗原佳宏、中田佳世、宮代勲. 大阪府がん登録から見た乳がんに対する集学的治療における医療機関連携. 日本がん登録協議会 第 33 回学術集会 in 島根. 2024, 出雲市.

9） 原加奈子, 中田 佳世, 石田理恵, 花原聡, 久馬麻希, 森島敏隆, 栗原佳宏, 宮代 勲. 大阪府における胆嚢がん・肝外胆管がん. 日本がん登録協議会 第 33 回学術集会 in 島根. 2024, 出雲市.

10） 花原聡, 中田佳世，久馬麻希，石田理恵，原加奈子，栗原佳宏，森島敏隆，宮代勲. 全国がん登録における指定診療所の適正化に向けた大阪府の取り組みについて. 日本がん登録協議会 第 33 回学術集会 in 島根. 2024, 出雲市.

11） 栗原佳宏, 森島敏隆, 工藤榛香, 島津美寿季, 小山史穂子, 中田佳世, 宮代勲. がん診断後 1 年以内に発症した心血管疾患はがん患者の全死亡ハザードの上昇と相関する. 第 7 回腫瘍循環器学会. 2024, 姫路市.

12） 栗原佳宏, 森島敏隆, 工藤榛香, 島津美寿季, 小山史穂子, 中田佳世, 宮代勲. The impact of cancer treatment on the relationship between BMI and prognosis in patients with cancer. 第 83 回日本癌学会学術総会. 2024, 福岡市.

13） 島津美寿季, 坂庭嶺人, 森島敏隆, 中田佳世, 小山史穂子, 工藤榛香, 宮代勲. がん診療拠点病院制度が 5 年生存率に与えた影響～大阪府がん登録を用いた解析. 第 83 回日本公衆衛生学会総会. 2024, 札幌市.

工藤　榛香（研究分担者）

１．論文発表

1） Kudo H, Nakata K, Morishima T, Shimadzu-Kato M, Kuwabara Y, Sawada A, Fujisaki H, Hashii Y, Miyashiro I. Prevalence of survivors of childhood cancer based on a population-based cancer registry in Osaka, Japan. Int J Cancer. 2024. 1;155(5):839-848.

※ 2025 年の World Cancer Day（UICC：世界対がん連合）の IJC special online Virtual Issue にも掲載（https://onlinelibrary.wiley.com/doi/toc/10.1002/(ISSN)1097-0215.world-cancer-day-2025）

2） Gon Y, Zha L, Morishima T, Kimura Y, Asai K, Kudo H, Sasaki T, Mochizuki H, Miyashiro I, Sobue T. Non-cancer-related Deaths in Cancer Survivors: A Nationwide Population-based Study in Japan. J Epidemiol. 2025. 5;35(3):147-153.

２．学会発表

1） 工藤榛香，中田佳世，森島敏隆，島津美寿季，栗原佳宏，宮代勲．大阪府がん登録を用いた小児がん経験者数の把握と有病率推計．日本がん登録協議会第 33 回学術集会．出雲，2024.6.13-6.15. ※優秀口演賞受賞

2） Irmina Maria Michałek, Łukasz Taraszkiewicz, Sinead T Hawkins, Abigail Jeyaraj, Isabelle Soerjomataram, Morten

Ervik, Joanne Aitken, Andy Gordon, Raquel López-González, Nuria Aragonés, Freddie Bray, Damien Foley, Tomohiro Matsuda, Marina Tanitame, Rafael Jose Peris Bonet, Huseyin Kucukali, Damien Bennett, Deidre Murray, Danny Youlden, Eva Ardanaz, Marcela Guevara, Haruka Kudo, Anna Gavin, Maciej Trojanowski. Polskojęzyczna aplikacja informatyczna ułatwiająca ocenę zaawansowania nowotworów dziecięcych według Toronto Childhood Cancer Stage Guidelines. Polish Society of Oncology Conference. Warsaw, Poland. 17-19 October 2024..

（R7 年度）

松田　智大（研究代表者）

１．論文発表

1） 松田智大, 梅沢淳, 中林愛恵 and 堀芽久美, 【日本のがん対策 過去・現在・未来-がん対策基本法成立 20 年を迎えて】がん登録から見た 5 年生存率の向上. 公衆衛生的視点と今後の展望. 公衆衛生, 2025. 89(11): p. 949‐960.

2） 松田智大 and 中林愛恵, 【がん診療 2025】総論　がん診療を支える基礎整備　がん登録の現状と今後の課題. 日本医師会雑誌, 2025. 154(特別 1): p. S121‐S122.

3） 松田智大, 西尾麻里沙 and 谷爲茉里奈, 【がん診療 2025】総論　わが国および世界におけるがんの現状　世界におけるがんの現状-疫学的な分析. 日本医師会雑誌, 2025. 154(特別 1): p. S36‐S40,S2‐S3.

4） Sripan, P., S.N. Yusof, D. Pongnikorn, I. Chitapanarux, B. Bahtiar, N.S. Ibrahim Tamin, K. Daoprasert, N. Waisri, Y.-J. Won, R.C.-J. Chiang, A. Trama, H. Charvat, K. Srithanaviboonchai and T. Matsuda, Incidence patterns of rare cancer in southeast Asian and western Pacific countries (RARECAREnet Asia project): a study using population-based cancer registry data, 2011–2015. The Lancet Regional Health - Southeast Asia, 2025. 41: p. 100670.

5） Sigel, B., D.R. Withrow, L.H.S. Veiga, E. Saito, T. Matsuda and K. Katanoda, Adult brain cancer incidence patterns: A comparative study between Japan and Japanese Americans. Int J Cancer, 2025. 157(3): p. 436–444.

6） Sigel, B., E. Saito, D. Yoneoka, T. Matsuda and K. Katanoda, Forecasting age-standardized incidence rates of gastric cancer from 1990-2050 in Japan according to H. pylori prevalence and eradication scenarios. J Gastroenterol, 2025.

7） Sibale Mojoo, D., I. Oze, H. Tsuge, Y. Taniyama, Y.N. Koyanagi, S. Yamamoto, M. Hori, K. Nakata, H. Sugiyama, I. Miyashiro, I. Oki, Y. Nishino, Y. Ito, K. Katanoda, A. Shibata, T. Matsuda, K. Matsuo and H. Ito, Comparative Net Survival Analysis of Men and Women With Breast Cancer in Japan: A Population-Based Study. Cancer Sci, 2025. 116(7): p. 1963–1971.

8） Rahman, M.M., M.S. Rahman, M.R. Islam, S. Gilmour, R. Haruyama, A. Budukh, A. Shankar, G. Mishra, R. Mehrotra, T.

Matsuda, M. Inoue and S.K. Abe, Regional Variations and Inequalities in Testing for Early Detection of Breast and Cervical Cancer: Evidence From a Nationally Representative Survey in India. J Epidemiol, 2025. 35(3): p. 129–140.

9） Nakata, K., Y.T. Cheung, M. Kato, G.N. Huong, C.S. Lam, T. Matsuda, E. Steliarova-Foucher, K. Pritchard-Jones, K. Matsumoto, A. Yoneda, H. Hori, A. Nakagawara and C.K. Li, Epidemiology of childhood cancer in Asia. EClinicalMedicine, 2025. 89: p. 103554.

10） Matsuda, T. and S. Okawa, Age-standardized mortality-to-incidence ratio for lung cancer in the world. Jpn J Clin Oncol, 2025. 55(2): p. 201–202.

11） Matsuda, T. and L. Gatellier, Age-standardized mortality-to-incidence ratio for kidney cancer in the world. Jpn J Clin Oncol, 2025. 55(7): p. 841–842.

12） Gatellier, L., B. Serckx, L. Dewulf, N. Brooke, B. Tombal, H. Charvat, K. Katsui, Y. Majima, J. Higashijima, K. Suzuki, I. Klingmann, B. Juzyna, I. Shakhnenko, K. Nakamura and T. Matsuda, Assessing and comparing patient engagement in clinical cancer research: A cross-regional analysis between Europe and Japan using a structured evaluation tool. J Cancer Policy, 2025. 46: p. 100634.

13） Gatellier, L., C. Cairo, Jr., S.K. Ong, R. Haruyama, A. Shankar, Q.M. Hussain, N. Dorji, K. Tshering, B. Sukumaran, D. Thol, Y. Zhang, G.A. Mishra, C.S. Pramesh, E. Suzanna, S.W. Nindito, M. Biglari, S.K. Abe, R. Parvin, J. Kim, B. Kim, S. Yim, M. Gunathilake, C. Vongdala, S.N. Yusof, U. Tsegmed, E. Nansalmaa, K.K. Kaung, Y.Y. Myint, K.K. Pradhananga, A. Yusuf, G.L.G. Phua, S. Samaraweera, S. Perera, S. Sangrajrang, G.H. Nguyen, T.T.T. Huong, W.Y.K. Hwang and T. Matsuda, National cancer control plans in ANCCA member countries: advancing a pan-Asian cancer initiative. Lancet Glob Health, 2025. 13(8): p. e1476–e1483.

14） Dee, E.C., M. Laversanne, N. Bhoo-Pathy, F.D.V. Ho, E.J.G. Feliciano, M.A.B. Eala, F.I.L. Ting, O. Ginsburg, F.Y. Moraes, B. Gyawali, S.L. Gomez, K. Ng, J.F. Wu, U. Jain, B. Jain, R.C. Columbres, T. Matsuda, S. Sangrajrang, E.S. Sinuraya, T.D. Bui, W. Wei, Y.J. Won, L.L. Foo, M.C.A. Ling, L. Mery, I. Soerjomataram and F. Bray, Cancer incidence and mortality estimates in 2022 in southeast Asia: a comparative analysis. Lancet Oncol, 2025. 26(4): p. 516–528.

15） Charvat, H. and T. Matsuda, Age-standardized mortality-to-incidence ratio for prostate cancer in the world. Jpn J Clin Oncol, 2025. 55(11): p. 1299–1300.

16） A, K.C.B., Z.W. Htay, R. Parvin, M. Murakami, T. Matsuda and S.K. Abe, Prevalence of Cervical Cancer Screening in Asia: A Systematic Review and Meta-Analysis. Asian Pac J Cancer Prev, 2025. 26(12): p. 4269–4281.

２．学会発表

1） Hanafusa, M., Y. Ito, N. Sawada, H. Sugiyama, M. Hori and T. Matsuda.

Inequalities in Net Survival for 20 Solid Cancer Sites Across Prefectures in Japan, 2012‑2015. in 第 34 回日本疫学会学術総会. 2026 Fev.

2） Hanafusa, M., N. Sawada, H. Sugiyama, M. Hori, and T. Matsuda. TRENDS IN FIVE-YEAR NET SURVIVAL FOR CANCER IN JAPAN BASED ON REGIONAL CANCER REGISTRIES: 1993–2015 DIAGNOSES. in NCC16 International Cancer Registry Forum. 2025 Nov. Bangkok, Thailand.

3） 花房真理子, 澤田典絵, 堀芽久美 and 松田智大. 地域がん登録に基づく日本のがん 5 年純生存率の経年推移：1993〜2015 年. in 第 34 回日本がん登録協議会学術集会. 2025 Jun. 名古屋.

伊藤　ゆり（研究分担者）

１．論文発表

1） Sibale Mojoo D, Oze I, Tsuge H, Taniyama Y, Koyanagi YN, Yamamoto S, Hori M, Nakata K, Sugiyama H, Miyashiro I, Oki I, Nishino Y, Ito Y, Katanoda K, Shibata A, Matsuda T, Matsuo K, Ito H: Comparative Net Survival Analysis of Men and Women With Breast Cancer in Japan: A Population-Based Study. Cancer Sci 2025, 116(7):1963-1971. 10.1111/cas.70068

２．学会発表

2） 伊藤ゆり: がん登録がん疫学からみたがん対策〜がん登録推進法施行 10 年を迎えて〜. In: 第 63 回日本癌治療学会学術集会: 10/16 ; パシフィコ横浜: がん患者・支援者プログラム PAL セミナー 2; 2025

3） 坂根純奈、隈丸拓、木村光誠、岩本充彦、相良安昭、伊藤ゆり: 女性乳がん患者の生存率における社会経済指標による格差とその分析. In: 第 33 回日本乳癌学会学術総会: 7/10 ; 京王プラザホテル: 口演; 2025.

4） 髙島祐子,松本吉史,浅石健,伊藤ゆり: 院内がん登録・DPC データを用いた単施設におけるがん患者への緩和ケア実施状況の客観指標の検討. In: 日本がん登録協議会第 34 回学術集会愛知大会: 6/6 ; ウインクあいち: [Poster]; 2025.

大木　いずみ（研究分担者）

１．論文発表

1） Oki I, Matz M, Sugiyama H, Shibata A, Nakata K, Saito MK, Matsuzaka M, Nishio M, Oze I, Watanabe K, Tanaka R, Gatellier L, Yoshida I, Ito H, Teramoto N, Yamashita N, Kaizaki Y, Moki F, Kurosawa K, Nemoto Y, Narimatsu H, Kanemura S, Miyashiro I, Mori D, Fujita S, Matsuda T, Coleman MP, Allemani C, Di Carlo V.

２．学会発表

1） 松田智大、大木いずみ．がん生存率の国際共同研究から考える日本の現状とこれからのがん対策、がん医療．日本公衆衛生学会第 84 回学術集会，2025 年 10 月 31 日，静岡市

2） Oki I, Fujita S, Nakahara R. Impact of COVID-19 Pandemic on cancer care in Tochigi prefecture. 2025 IACR Scientific Conference. İzmir, Türkiye, November 2025.

片野田　耕太（研究分担者）

１．論文発表

1） Tanaka H, Arai K, Katanoda K. Updated Trends in Cancer Statistics in Japan: Incidence in 1985-2021 in selected prefectures and Mortality in 1979-2023-Beyond the Launch of the National Cancer Registry in 2016. J Epidemiol. 2026 (in press).doi: 10.2188/jea.JE20250559

杉山　裕美（研究分担者）

１．論文発表

2） Sugiyama H, Di Carlo V, Matsuda T, P Coleman M, Allemani C. Trends in survival for cancer patients diagnosed during 2000 – 14 in Japan : detailed analysis of individual data from population-based cancer registries (CONCORD-3). Jpn J Clin Oncol 2026;56:i1‑2.

3） Sugiyama H, Carlo V Di, Matz M, Oki I, Shibata A, Nakata K, Saito MK, Matsuzaka M, Nishio M, Oze I, Watanabe K, Tanaka R, et al. Trends in net survival for 1 , 834 , 894 patients with cancer from 16 population-based cancer registries in Japan , 2000 – 14 (CONCORD-3). Jpn J Clin Oncol 2026;56:i3–16.

4） Matsuda T, Carlo V Di, Matz M, Oki I, Shibata A, Nakata K, Saito MK, Matsuzaka M, Nishio M, Oze I, Watanabe K, Tanaka R, et al. Trends in survival for patients with esophageal cancer in Japan , 2000 – 14 (CONCORD-3). Jpn J Clin Oncol 2026;56:i17–24.

5） Matsuzaka M, Carlo V Di, Matz M, Sugiyama H, Oki I, Shibata A, Nakata K, Saito MK, Nishio M, Oze I, Watanabe K, Tanaka R, et al. Trends in net survival for patients with stomach cancer in Japan, 2000–14 (CONCORD-3). Jpn J Clin Oncol 2026;56:i25–33.

6） Oki I, Matz M, Sugiyama H, Shibata A, Nakata K, et al. Trends in net survival for cancers of the colon and rectum in Japan, 2000–2014 (CONCORD-3). Jpn J Clin Oncol 2026;56:i34–43.

7） Nishio M, Matz M, Sugiyama H, Oki I, Shibata A, et al. Trends in net survival for cancers of the liver and pancreas in Japan, 2000–2014 (CONCORD-3). Jpn J Clin Oncol 2025;(Accepted):44–55.

8） Oze I, Matz M, Sugiyama H, Oki I, Shibata A, Nakata K, et al. Trends in Survival for Patients with Lung Cancer in Japan, 2000–2014 (CONCORD-3). Jpn J Clin Oncol 2026;56:i56–63.

9） Sugiyama H, Di Carlo V, Matz M, Oki I, Shibata A, et al. Trends in net survival of patients with cutaneous melanoma in Japan, 2000–2014 (CONCORD-3). Jpn J Clin Oncol 2026;56:i64–72.

10） Watanabe K, Di Carlo V, Sugiyama H, Nakamura S, Chei C-L, et al. Trends in 5-year net survival for women diagnosed with breast, cervical or ovarian cancer in Japan, 2000–2014 (CONCORD-3). Jpn J Clin Oncol 2025;56:i73–86.

11） Tanaka R, Matz M, Sugiyama H, Oki I, Shibata A, Nakata K, Saito MK, Matsuzaka M, Nishio M, Oze I, Watanabe K, Gatellier L, et al. Trends in net survival for prostate cancer in Japan , 2000 – 14 (CONCORD-

3). Jpn J Clin Oncol 2026;56:i87–93.

12） Gatellier L, Matz M, Sugiyama H, Oki I, Shibata A, Nakata K, Saito MK, Matsuzaka M, Oze I, Watanabe K, Tanaka R, Nishio M, et al. Trends in net survival for patients with brain tumors in Japan , 2000 – 14 (CONCORD-3). Jpn J Clin Oncol 2026;56:i94–102.

13） Yoshida I, Di Carlo V, Matz M, Yamashita N, Teramoto N, Oki I, et al. Trends in survival for adult patients with hematopoietic malignancies in Japan, 2000–2014 (CONCORD-3). Jpn J Clin Oncol 2026;56:i103–15.

14） Nakata K, Di Carlo V, Matz M, Sugiyama H, Oki I, Shibata A, et al. Trends in survival for children with brain tumors, acute lymphoblastic leukemia and lymphomas in Japan, 2000–2014 (CONCORD-3). Jpn J Clin Oncol 2026;56:i116–25.

２．学会発表

1） 杉山裕美、雑賀公美子、松田智大. がんの生存率はその希少性に関わらずがん種によって異なる．第 84 回 日本癌学会学術総会 2025 年 9 月 金沢

2） 杉山裕美．がん生存率の国際共同研究 CONCORD-3 Study の概要とがん登録データを用いた国際共同研究の今後の課題．第 84 回 日本公衆衛生学会総会 2025 年 10 月 静岡

3） H Sugiyama, K Saika, T Matsuda. Cancer survival for rare and common cancers based on the Japanese National Cancer Registry data. IACR Annual Scientific Conference 2025/11/04-2025/11/07 Izmir, Turkey

雑賀　公美子（研究分担者）

１．論文発表

1） Saika K, Matsuda T, Age-standardized mortality-to-incidence ratio for all cancers in the world, Jpn J Clin Oncol, 55(1), 91-92, 2025.

2） Gatellier L, Saika K, Age-standardized mortality-to-incidence ratio for esophagus cancer in the world, Jpn J Clin Oncol, 55(5), 560-561, 2025.

3） Saika K, Okawa S, Age-standardized mortality-to-incidence ratio for female breast cancer in the world, Jpn J Clin Oncol, 55(8), 982-983, 2025.

4） Okawa S, Saika K, Age-standardized mortality-to-incidence ratio for ovarian cancer in the world, Jpn J Clin Oncol, 55(10), 1198-1199, 2025.

5） Saika K, Gatellier L, Age-standardized mortality-to-incidence ratio for gallbladder cancer in the world, Jpn J Clin Oncol, 55(12), 1401-1402, 2025.

6） Matsuda T, Saika K, Age-standardized mortality-to-incidence ratio for pancreatic cancer in the world, Jpn J Clin Oncol, 56(2), 241-242, 2026

伊藤　秀美（研究分担者）

１．論文発表

1） Watanabe K, Di Carlo V, Sugiyama H, Nakamura S, Chei CL, Ito H（18/31 人）, et al. Trends in 5-year net survival for women diagnosed with breast, cervical or ovarian cancer in Japan, 2000-14 (CONCORD-3). Jpn J Clin Oncol. 2026

Mar 20;56(Supplement_1):i73-i86.

2） Yoshida I, Di Carlo V, Matz M, Yamashita N, Teramoto N, Ito H（16/29 人）, et al. Trends in survival for adult patients with hematopoietic malignancies in Japan, 2000-14 (CONCORD-3). Jpn J Clin Oncol. 2026 Mar 20;56(Supplement_1):i103-i115.

3） Nishio M, Matz M, Sugiyama H, Oki I, Shibata A, Ito H（14/29 人）, et al. Trends in net survival for cancers of the liver and pancreas in Japan, 2000-14 (CONCORD-3). Jpn J Clin Oncol. 2026 Mar 20;56(Supplement_1):i44-i55.

4） Matsuda T, Di Carlo V, Matz M, Oki I, Shibata A, Ito H（15/29 人）, et al. Trends in survival for patients with esophageal cancer in Japan, 2000-14 (CONCORD-3). Jpn J Clin Oncol. 2026 Mar 20;56(Supplement_1):i17-i24.

5） Tanaka R, Matz M, Sugiyama H, Oki I, Shibata A, Ito H（14/29 人）, et al. Trends in net survival for prostate cancer in Japan, 2000-14 (CONCORD-3). Jpn J Clin Oncol. 2026 Mar 20;56(Supplement_1):i87-i93.

6） Nakata K, Di Carlo V, Matz M, Sugiyama H, Oki I, Ito H（15/29 人）, et al. Trends in survival for children with brain tumors, acute lymphoblastic leukemia, and lymphomas in Japan, 2000-14 (CONCORD-3). Jpn J Clin Oncol. 2026 Mar 20;56(Supplement_1):i116-i125.

7） Oki I, Matz M, Sugiyama H, Shibata A, Nakata K, Ito H（14/29 人）, et al. Trends in net survival for cancers of the colon and rectum in Japan, 2000-14 (CONCORD-3). Jpn J Clin Oncol. 2026 Mar 20;56(Supplement_1):i34-i43.

8） Oze I, Matz M, Sugiyama H, Oki I, Shibata A, Ito H（8/29 人）, et al. Trends in survival for patients with lung cancer in Japan, 2000-14 (CONCORD-3). Jpn J Clin Oncol. 2026 Mar 20;56(Supplement_1):i56-i63.

9） Matsuzaka M, Di Carlo V, Matz M, Sugiyama H, Oki I, Ito H（15/29 人）, et al. Trends in net survival for patients with stomach cancer in Japan, 2000-14 (CONCORD-3). Jpn J Clin Oncol. 2026 Mar 20;56(Supplement_1):i25-i33.

10） Sugiyama H, Di Carlo V, Matz M, Oki I, Shibata A, Ito H（15/29 人）, et al. Trends in net survival for 1,834,894 patients with cancer from 16 population-based cancer registries in Japan, 2000-14 (CONCORD-3). Jpn J Clin Oncol. 2026 Mar 20;56(Supplement_1):i3-i16.

11） Sugiyama H, Di Carlo V, Matz M, Oki I, Shibata A, Ito H（15/29 人）, et al. Trends in net survival of patients with cutaneous melanoma in Japan, 2000-14 (CONCORD-3). Jpn J Clin Oncol. 2026 Mar 20;56(Supplement_1):i64-i72.

12） Gatellier L, Matz M, Sugiyama H, Oki I, Shibata A, Ito H（14/29 人）, et al. Trends in net survival for patients with brain tumors in Japan, 2000-14 (CONCORD-3). Jpn J Clin Oncol. 2026 Mar 20;56(Supplement_1):i94-i102.

13） Sibale Mojoo D, Oze I, Tsuge H, Taniyama Y, Koyanagi YN, Yamamoto S, Hori M, Nakata K, Sugiyama H, Miyashiro I, Oki I, Nishino Y, Ito Y, Katanoda K, Shibata A,

Matsuda T, Matsuo K, Ito H. Comparative Net Survival Analysis of Men and Women With Breast Cancer in Japan: A Population-Based Study. Cancer Sci. 2025 Jul;116(7):1963-1971.

２．学会発表

1） 都市度別にみた地理的剥奪指標とがん罹患・死亡との関連：空間ベイズモデルによる推定．小柳友理子, 川浦正規, 松尾恵太郎, 川勝雪乃, 谷山裕香里, 尾瀬功, 大谷隆浩, 高橋邦彦, 山口類, 中谷友樹, 伊藤秀美．日本がん登録協議会第 34 回学術集会愛知大会（口演）．（2025 年 6 月　名古屋）

2） 2000-2014 年における日本の肺がん患者の 5 年純生存率の推移：CONCORD-3 研究．尾瀬功, Melissa Matz, 大木いずみ, 柴田亜希子, 中田佳世, 梶尾（斎藤）真理, 伊藤秀美, 松坂方士, 寺本典弘, Michel P Coleman, Claudia Allemani, Veronica Di Carlo, 松田智大, 杉山裕美, Japan CONCORD-3 Working Group．日本がん登録協議会第 34 回学術集会愛知大会（ポスター）．（2025 年 6 月　名古屋）

3） COVID-19 の蔓延が日本のがん罹患数に与えた影響．田中里奈, 杉山裕美, 伊藤秀美, 大木いずみ, 小田崇志, 佐藤雅子, 金村政輝．日本がん登録協議会第 34 回学術集会愛知大会（ポスター）．（2025 年 6 月　名古屋）

4） flexible scan 法を用いたがん死亡の地理的クラスタの同定．大谷隆浩, 尾瀬功, 川浦正規, 小柳友理子, 松尾恵太郎, 高橋邦彦．日本がん登録協議会第 34 回学術集会愛知大会（ポスター）．（2025 年 6 月　名古屋）

5） 愛知県における胃がんの罹患と死亡のギャップ：その要因の検討．松尾恵太郎, 小柳友理子, 尾瀬功, 伊藤秀美．日本がん登録協議会第 34 回学術集会愛知大会（ポスター）．（2025 年 6 月　名古屋）

6） 院内がん登録からみる当院の乳癌診療と全国集計との比較．小牧里恵, 吉村章代, 安藤美の里, 小川莉佳子, 中澤綾, 楠戸真帆, 遠藤由香, 秋田由美子, 片岡愛弓, 小谷はるる, 服部正也, 原文堅, 伊藤秀美．日本がん登録協議会第 34 回学術集会愛知大会（ポスター）．（2025 年 6 月　名古屋）

7） 名古屋市のエビデンスに基づくがん対策への試み．石川博己, 小嶋雅代, 前野健, 松尾恵太郎, 伊藤秀美．日本がん登録協議会第 34 回学術集会愛知大会（ポスター）．（2025 年 6 月　名古屋）

8） 愛知県がん登録室の最近の活動と今後の課題．羽佐田香代, 中嶋和男, 青木順子, 平岩愛, 板生春美, 江口幸香, 畔柳美弥, 川浦正規, 尾瀬功, 伊藤秀美．日本がん登録協議会第 34 回学術集会愛知大会（ポスター）．（2025 年 6 月　名古屋）

9） 愛知県における院内がん登録データの利活用：施設別集計の実践．川浦正規, 尾瀬功, 小柳友理子, 松尾恵太郎, 田近正洋, 山本一仁, 丹羽康正, 伊藤秀美．日本がん登録協議会第 34 回学術集会愛知大会（ポスター）．（2025 年 6 月　名古屋）

10） Socioeconomic Inequalities and Cancer Outcomes at the Community Level: A

Spatial Epidemiological Approach. Hidemi Ito. 第 84 回日本癌学会学術総会 International Session “Cancer and inequality”（シンポジウム）.（2025 年 9 月　金沢）

11）2000-2014 年における日本の肺がん患者の 5 年純生存率：CONCORD-3 研究. 尾瀬功, Melissa Matz, 伊藤秀美, 大木いずみ, 中田佳世, 松坂方士, 田中里奈, 山下夏実, Michel P Coleman, Veronica Di Carlo, 松田智大, 杉山裕実, Japanese CONCORD-3 Working Group. がん予防学術大会 2025（口演）.（2025 年 9 月 名古屋）

12）名古屋市「ワンコインがん検診」の受診率と地理的剥奪指標の関連. 藤波春菜, 尾瀬功, 柘植博之, 川浦正規, 石川博己, 前野健, 山本清花, 小柳友理子, 小嶋雅代, 松尾恵太郎, 伊藤秀美. がん予防学術大会 2025（ポスター）.（2025 年 9 月　名古屋）

13）Impact of smoking/drinking prevalence on association between areal-level socioeconomic status and cancer mortality in Japan: A nationwide cross-sectional ecological study. Yuriko N Koyanagi, Hiroshi Tsuge, Masanori Kawaura, Isao Oze, Takahiro Otani, Tomoki Nakaya, Kunihiko Takahashi, Rui Yamaguchi, Keitaro Matsuo, Hidemi Ito. 2025 IACR Scientific Conference（ポスター）.（2025 年 11 月　イズミル）

14）District-level Participation in “500-yen Cancer Screening” and Areal Deprivation in City of Nagoya. Haruna Fujinami, Isao Oze, Masaki Kawaura, Hiroki Ishikawa, Ken Maeno, Sayaka Yamamoto, Yuriko Koyanagi, Masayo Kojima, Keitaro Matsuo, Hidemi Ito. The 36th Annual Scientific Meeting of the Japan Epidemiological Association & The 3rd Joint Scientific Meeting with the IEA Western Pacific Region（ポスター）.（2026 年 1 月　長崎）

15）Spatial Clusters in Cancer Incidence and Mortality in Japan: A Flexible Scan Statistics Approach. Takahiro Otani, Isao Oze, Masanori Kawaura, Yuriko N Koyanagi, Keitaro Matsuo, Hidemi Ito, Kunihiko Takahashi. The 36th Annual Scientific Meeting of the Japan Epidemiological Association & The 3rd Joint Scientific Meeting with the IEA Western Pacific Region（ポスター）.（2026 年 1 月　長崎）

中田　佳世（研究分担者）

１．論文発表

1）（著書）中田佳世．小児腫瘍の疫学. 岩淵英人、井上健編：臨床と病理. 文光堂．東京都．0310‐0315

2）Nakata K, Cheung YT, Kato M, Huong GN, Lam CS, Matsuda T, Steliarova-Foucher E, Pritchard-Jones K, Matsumoto K, Yoneda A, Hori H, Nakagawara A, Li CK. Epidemiology of childhood cancer in Asia. EClinicalMedicine. 2025 Nov 4;89:103554.

3）Sugiyama H, Carlo V Di, Matz M, Oki I, Shibata A, Nakata K, Saito MK, Matsuzaka M, Nishio M, Oze I, Watanabe K, Tanaka R, et al. Trends in net survival for 1 , 834 ,

894 patients with cancer from 16 population-based cancer registries in Japan , 2000 – 14 (CONCORD-3). Jpn J Clin Oncol 2026;56:i3–16.

4） Matsuda T, Carlo V Di, Matz M, Oki I, Shibata A, Nakata K, Saito MK, Matsuzaka M, Nishio M, Oze I, Watanabe K, Tanaka R, et al. Trends in survival for patients with esophageal cancer in Japan , 2000 – 14 (CONCORD-3). Jpn J Clin Oncol 2026;56:i17–24.

5） Matsuzaka M, Carlo V Di, Matz M, Sugiyama H, Oki I, Shibata A, Nakata K, Saito MK, Nishio M, Oze I, Watanabe K, Tanaka R, et al. Trends in net survival for patients with stomach cancer in Japan, 2000–14 (CONCORD-3). Jpn J Clin Oncol 2026;56:i25–33.

6） Oki I, Matz M, Sugiyama H, Shibata A, Nakata K, et al. Trends in net survival for cancers of the colon and rectum in Japan, 2000–2014 (CONCORD-3). Jpn J Clin Oncol 2026;56:i34–43.

7） Nishio M, Matz M, Sugiyama H, Oki I, Shibata A, Nakata K, et al. Trends in net survival for cancers of the liver and pancreas in Japan, 2000–2014 (CONCORD-3). Jpn J Clin Oncol 2025;(Accepted):44–55.

8） Oze I, Matz M, Sugiyama H, Oki I, Shibata A, Nakata K, et al. Trends in Survival for Patients with Lung Cancer in Japan, 2000–2014 (CONCORD-3). Jpn J Clin Oncol 2026;56:i56–63.

9） Sugiyama H, Di Carlo V, Matz M, Oki I, Shibata A, Nakata K, et al. Trends in net survival of patients with cutaneous melanoma in Japan, 2000–2014 (CONCORD-3). Jpn J Clin Oncol 2026;56:i64–72.

10） Watanabe K, Di Carlo V, Sugiyama H, Nakamura S, Chei CL, Narimatsu H, Matz M, Oki I, Shibata A, Nakata K, et al. Trends in 5-year net survival for women diagnosed with breast, cervical or ovarian cancer in Japan, 2000–2014 (CONCORD-3). Jpn J Clin Oncol 2025;56:i73–86.

11） Tanaka R, Matz M, Sugiyama H, Oki I, Shibata A, Nakata K, Saito MK, Matsuzaka M, Nishio M, Oze I, Watanabe K, Gatellier L, et al. Trends in net survival for prostate cancer in Japan , 2000 – 14 (CONCORD-3). Jpn J Clin Oncol 2026;56:i87–93.

12） Gatellier L, Matz M, Sugiyama H, Oki I, Shibata A, Nakata K, Saito MK, Matsuzaka M, Oze I, Watanabe K, Tanaka R, Nishio M, et al. Trends in net survival for patients with brain tumors in Japan , 2000 – 14 (CONCORD-3). Jpn J Clin Oncol 2026;56:i94–102.

13） Yoshida I, Di Carlo V, Matz M, Yamashita N, Teramoto N, Oki I, Shibata A, Nakata K, et al. Trends in survival for adult patients with hematopoietic malignancies in Japan, 2000–2014 (CONCORD-3). Jpn J Clin Oncol 2026;56:i103–15.

14） Nakata K, Di Carlo V, Matz M, Sugiyama H, Oki I, Shibata A, et al. Trends in survival for children with brain tumors, acute lymphoblastic leukemia and lymphomas in Japan, 2000–2014 (CONCORD-3). Jpn J Clin Oncol 2026;56:i116–25.

２．学会発表

1） 中田佳世. AYA 世代がん患者のアンメット・ニーズ-疫学的視点から-. 第 58 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会. 2025, 奈良市

2） 中田佳世. 小児がん生存率の国際比較から考える日本の小児がん医療における今後の課題. 第 84 回日本公衆衛生学会総会. 2025, 静岡市

3） 中田佳世. がん登録データの活躍と診療情報管理士への期待. 国際医療福祉大学大学院 診療情報アナリスト養成分野. 第 18 回 講演会・大学院進学相談会. 2025. Web

4） Kudo H, Nakata K, Kishimoto K, Ikawa T, Iwaki Y, Kuwabara Y, Morishima T, Miyashiro I. Prevalence of cancer survivors in 2019 among patients diagnosed between 1975 and 2019: a population-based study in Japan. 29th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) 2026. Singapore. 27-28 February 2026.（示説）

工藤　榛香（研究分担者）

２．学会発表

1） Jeyaraj A, Ervik M, Soerjomataram I, Hawkins ST, Aitken J, López-González R, Aragonés N, Bray F, Foley D, Matsuda T, Tanitame M, Peris Bonet RJ, Bennett D, Murray D, Ardanaz E, Guevara M, Kudo H, Trojanowski M, Taraszkiewicz T, Neamtiu L, Van Eycken L, Hermann S, Grosclaude P, Žagar T, Geng Q, Shi MY, Yuan L, Jansen L, Gavin A. FREE ELECTRONIC STAGING TOOL FOR POPULATION-BASED CANCER REGISTRIES: CANSTAGING+. 2025 IACR Scientific Conference. Izmir, Türkiye. 5-7 November 2025.（示説）

2） Kudo H, Nakata K, Kishimoto K, Ikawa T, Iwaki Y, Kuwabara Y, Morishima T, Miyashiro I. Prevalence of cancer survivors in 2019 among patients diagnosed between 1975 and 2019: a population-based study in Japan. 29th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) 2026. Singapore. 27-28 February 2026.（示説）